

# Passerelle Report

パスレル レポート

厚生労働省  
令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業

中国・四国ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター  
[中国・四国 Artbrut Support Center passerelle]

令和6年度 事業報告書



## 目次

- 1 はじめに | 岡村忠弘
- 2 エッセイ「もっと、いろいろ、やってみる」 | 北添紫光

### 中国・四国ブロックの各支援センターの取り組み

- 4 鳥取県 あいサポート・アートセンター
- 6 鳥根県 鳥根県障がい者文化芸術活動支援センター しまねいろ
- 8 岡山県 岡山県子ども・福祉部障害福祉課
- 10 広島県 広島県アートサポートセンター
- 14 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
- 16 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES
- 18 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター
- 20 高知県 薬工ミュージアム 分室

### 主催事業：アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画

- 24 事業概要
- 25 「福祉に風を」 | 平谷尚大
- 26 鳥取県 ノームの糸車
- 28 広島県 ころる
- 30 徳島県 ぶれむきっず
- 32 香川県 たまも園
- 34 愛媛県 ぽこあぽこ
- 36 高知県 もみのきっず
- 38 ふりかえり座談会

### 主催事業：アートデリバリープロジェクト

- 44 事業概要
- 45 アートディレクション
- 46 [香川県] ZENキューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト
- 48 小笠原流の筆談鑑賞会とペチャクチャ鑑賞会について | 小笠原新也
- 50 寄稿「ZENキューブでつなごう展」 | 竹内文浩
- 52 ふりかえり座談会
- 54 [山口県] 第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト
- 56 「開かれた作品」としてのギャラリーツアー体験 | 会田大也
- 58 ふりかえり座談会
- 60 [徳島県] みんなであそぼうの日+アートデリバリープロジェクト
- 61 ふりかえり座談会

- 63 その他の取り組み
- 64 エピローグ「出会いの場をつくる意味」 | 岡村忠弘

## はじめに

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle (パスレル) が、障害者芸術文化活動普及支援事業の中国・四国ブロックの広域センターとして活動を開始して、本年度で5年目を迎えました。

今年度も、各地の支援センターおよび行政の皆さまと共に、さまざまな企画を実施してまいりました。本誌では、第1章で中国・四国ブロックの各支援センターの取り組みを紹介し、第2章では当センター主催事業として、「アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」を紹介します。そして、第3章では、同じく当センター主催事業の「アートデリバリープロジェクト」について詳しくご紹介します。

今年度、初めて実施した「アートデリバリープロジェクト」では、多くの「出会い」が生まれ、改めて「出会う」「繋がる」ことの大切さを実感した一年となりました。「アートデリバリープロジェクト」は、香川県、山口県、徳島県で開催され、各地域の特色を活かした多様な表現の場が生まれました。本企画を通じて、新たな繋がりが生まれる場面が多く見られ、作品を介した交流が広がりました。

ご紹介する企画はどれも、多くの「出会い」を生み、新たな「つながり」を育むきっかけとなりました。芸術文化を通じた交流が、地域や社会との結びつきを深める大きな力になることを実感しています。改めて「場」をつくることの重要性を認識し、そうした循環を大切にしながら、中国・四国ブロックの皆さまと共に成長していきたいと考えています。

本書が、本事業を知っていただくきっかけになるとともに、障害者の芸術文化活動普及支援の一助になれば幸いです。

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle  
センター長 岡村忠弘

## もっと、いろいろ、やってみる

私は打楽器奏者として、年間約100の演奏に加えて、地域の方々を対象に打楽器のワークショップを年10回程度行っています。さらに、舞台関係の仕事にも携っており、音響オペレーターや舞台監督、大会の審査員などの活動も行っています。地域に根ざした打楽器奏者としての活動や舞台関係の仕事を続ける中で、これまでにさまざまな出会いや経験をしてきました。

ある時、私が音響オペレーターとして関わったことのあるフラダンスの先生から、その先生が大切にしている発表会の舞台監督をお願いしたいと依頼されました。私は音楽や音響については多少の知識がありましたが、舞台監督というポジションがどのような役割を担うのかさえも当時は知らなかったため、最初はその依頼をお断りしました。しかし、先生の「あなたにその場においてほしい」という言葉に押し切られる形で依頼を受けることとなり、打ち合わせを重ねて当日を迎えました。

知り合いの舞台監督から聞きかじったノウハウや、ネットで調べた知識を頼りに、発表会当日、私はステージに立っていました。本番に向けてしっかりと練習を重ねた生徒さんと、プロの技術スタッフとのリハーサルを経て迎えた本番は、満員の客席の中で行われました。予鈴が鳴り、本番が始まると、私はいつの間にか夢中で技術スタッフにナレーションや幕のタイミングを秒単位で、いや、それ以上に細かい、自分にしか分からない感覚を頼りに指示を出していました。そして、そのまま生徒さんと技術スタッフ、そしてお客さんに導かれるままに、自然とステージは進行していきました。

緞帳を下ろした後、今回で最後と言っていた先生が「すごく楽しかった、またやるかも」と言ってハグしてくれた時、私はようやく舞台が終わったことを実感しました。決して美談ではなく、本当に力不足を感じた舞台監督経験でしたが、この経験は何よりも大切なことを一つ私に教

えてくれました。それは、『とりあえずやってみる』ということの大切さです。

その逆は何でしょう？『色々検討してやらない』でしょうか。先生に舞台監督を頼まれた時に、もし色々検討した結果やらない選択をしていたらと思うとゾッとします。過去にそのような経験をしたことがあるからこそ、先行きが見通せなくても『とりあえずやってみる』のが私の生き方の一つになりました。

アート活動についても同様に、『とりあえずやってみる』以上に大事なことはないと思います。色々と考えてやらないよりも、とりあえずやってみて、そこから学ぶ方が遥かに得るものが多いというのは、私が常に実感していることです。最初の一步こそ、最大の一步だと私は思います。アートには、情動というか、その瞬間の感情を大きく動かす力があります。そのエネルギーこそが、人々がアートに惹かれてやまない理由の大部分を占めているのではないのでしょうか。ジャンルを問わず、アート活動に取り組んでいない事業所は、ぜひ事業所内でアート活動に取り組んでみてください。すでにアート活動に取り組んでいる事業所は、この先もぜひ継続してアート活動を続けてほしいと思います。あれからまだ3年しか経っていませんが、私はその『とりあえずやってみる』という精神のおかげで、これまでとは少しだけ違った景色を見ることができています。これからも『とりあえずやってみる』精神を大切にしながら、一緒に新しい景色を楽しんでいきましょう。

障害者芸術文化活動広域支援センターバスレル  
舞台芸術部門コーディネーター 北添紫光

支援センター

# 鳥取

## あいサポート・アートセンター

### 鳥取県立バリアフリー美術館の管理運営

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
障がいのあるアーティストの作品に特化したオンライン上の美術館の管理運営、企画展の実施、作品の発掘。

### 障がい者アート活動支援事業補助金

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
障がいのある方を含むグループ・団体が、作品展への出展や発表会への出演などをめざし、指導者等の指導を受けながら行うアート活動等に対して支援を行う制度。

### 山陰ご当地フォントプロジェクトの支援

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
障がいのある方とデザイナーが協力してフォントとパターンを制作し、収益を生みながら社会とつなげ還元するプロジェクトの支援。

### フリーペーパー Hugsの発行

[ 2024.6、10、2025.3 ]  
障がいと共に生きるアーティスト達とそこにある世界を発信。noteも運用。

### ～脳が脱皮する美術館～対話型アート鑑賞

[ 2024.7.25(木)、26(金) | ギャラリーからふる、倉吉病院 ]  
障がい者アートを使った対話型鑑賞。

### Meetup vol.03

[ 2024.8.30(金)～9.3(火) | 米子市美術館 ]  
オンライン上の美術館「鳥取県立バリアフリー美術館」の常設展示室に収蔵した51作品の原画を展示。

### きらめきアート展への協力

[ 2024.9.1(日)～9.15(日) | 鳥取市民会館、鳥取市文化センター、わらべ館、城下町とっとり交流館、鳥取城跡仁風閣展示館 ]  
障がい者雇用支援月間(毎年9月)に合わせ「鳥取市はーとふるアートギャラリー」に認定されている鳥取県東部3施設(アトスペースからふる・十人十色・鹿野第二かちみ園)の障がいのある方の作品を5つの会場で展示。  
主催:(一社)鳥取市教育福祉振興会 共催:(公財)鳥取市文化財団、(公財)鳥取童話・おもちゃ館 協力:あいサポート・アートセンター、フクシ×アートWEEK実行委員会

### 障がいと共に生きるアーティストたちの原画展示販売会 at 吉祥寺

[ 2024.9.21(土)～9.23(月) | シェアスペース マジェルカ ]  
鳥取県はーとふるアートギャラリーに認定されている5施設のアート作品30点を東京で展示販売。

### 鳥取県はーとふるアートギャラリー合同展「はーとをふるわせて4」

[ 2024.10.19(土)～11.24(日) | ギャラリーからふる、ギャラリー鳥たちのいえ ]  
障がいと共に生きるアーティスト達の作品を気軽に鑑賞できる「鳥取県はーとふるアートギャラリー」の合同展。

### フクシ×アートフォーラム「アートが叶える世界」

[ 2024.11.3(日) | 鳥取市役所 鳥取市民交流センター2階多目的室1 ]  
フクシ×アート WEEKs 2024 連携企画。  
講師:セイン・カミュ氏((一社)障がい者自立推進機構 理事/タレント) 座談会:尾崎信一郎氏(鳥取県立美術館館長)、妹尾恵依子(あいサポート・アートセンターセンター長/(一社)アトスペースからふる理事長)

### あいサポート・アートとっとり展の企画運営

[ 2024.12.21(土)～2025.1.5(日) | 米子市美術館/1.11(土)～1.19(日) | 倉吉未来中心/2.8(土)～2.16(日) | 鳥取県立博物館 ]  
鳥取県内の障がいのある人達を対象に募集したアート作品を一堂に展示する展覧会の運営。  
主催:鳥取県

### あいサポート・アートとっとり展10周年記念展示

[ 2025.1.15(水)～1.19(日) | エースバック未来中心 小ホール ]  
10周年記念を記念し、過去の入賞作品から一部を展示。

### あいサポート・アートとっとり展10周年記念特別講演

[ 2025.1.18(土) | エースバック未来中心 セミナールーム3 ]  
講師:東ちづる 氏(俳優/(一社)Get in touch 代表)



あいサポート・アートとっとり展

### 「知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム」への協力

[ 2025.1.13(月) | とりぎん文化会館小ホール ]  
音の大きさや響き、照明による明暗、鑑賞者としてのルールを鑑賞しながら学び、「劇場」という場所を映画、コンサート、ミュージカルなどを体験するプログラム。  
主催:鳥取県(運営:あいサポート・アートセンター) 協力:公益財団法人鳥取県文化振興財団、アンサンブルフロイデン 企画・コーディネート:国際障害者交流センター ビッグ・アイ

### アート講座「アール・ブリュットとは？」

[ 2025.2.10(月)～2.14(金) | 鳥取県立博物館 ]  
鳥取西高校の2年生7クラスを対象にアール・ブリュットの考え方や歴史、代表的な作家についての講義。講義後はあいサポート・アートとっとり展を鑑賞。

### 「インクルーシブ・アート共同鑑賞ワークショップ」への協力

[ 2025.2.13(木) | 青翔開智高校 ]  
授業の一環として目の見える人と見えない人の障がい者アートの共同鑑賞を鳥取大学、鳥取県と連携し実施。

～脳が脱皮する美術館～対話型アート鑑賞



障がいと共に生きるアーティストたちの原画展示販売会 at 吉祥寺



あいサポート・アートとっとり展10周年記念特別講演



Meetup vol.03

# 島根

支援センター

## 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

### まちと福祉と芸術文化についての オープンミーティング #04

[ 2024.6.23 (日) | グラントワ多目的ギャラリー ]  
障がい者の文化芸術活動に関心のある方に対し、県内外の障がい者芸術活動の取組み紹介や、参加者によるアイデアを出し合う交流ワークショップの開催。  
主催：文化庁、島根県、(公財)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場) 共催：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ

### 江津清和養護学校「高等部3組ゴミアート体験」

[ 体験：2024.6.25 (火)、2024.7.10 (水) | 江津清和養護学校 ]  
[ 作品展：2024.10.16～10.21 (月) | 風のえんがわギャラリースペース ]  
「総合的な探求の時間」の学習の中で、海洋ゴミ問題とアートを学び、海洋ゴミをアートとしてよみがえらせる活動に取り組む。作品展を地域のギャラリーで開催した。  
主催：江津清和養護学校 協力：アトリエ・スノイロ(栗山千尋氏)、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ

### 「地蔵とリビドー」上映会& やまなみ工房山下施設長トークショー

[ 2024.8.31 (土) | Green's Baby ]  
ドキュメンタリー映画「地蔵とリビドー」の上映、やまなみ工房さんが大切にしていることや創作活動に関するエピソードから、障がいのある方の文化芸術活動の在り方や関わり方、意義について考える機会とした。  
主催：あっぱーあーむ 協力：やまなみ工房、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、Green's Baby

### 島根県立大学松江キャンパス2024 アートフルキャンパス事業～文化・芸術の香りをキャンパスに～

[ 2024.10.1～ | 島根県立大学松江キャンパス ]  
文化や芸術の雰囲気が漂うキャンパスづくりの一環として、障がい者アートの絵画を図書館や食堂など学生の目に触れやすい場所に展示する取組み。初年度は、2025年9月まで展示。  
主催：島根県立大学松江キャンパス 協力：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ

### アクアート2024 —うみ・いろ・かたち展—

[ 創作日：2024.10.8 (火) / 展示期間：「うみ・いろ・かたち展」2024.11.20 (水)～12.16 (月) | しまね海洋館アクアス館内(ペンギン館) ]  
休館日の水族館を特別に満喫しながら、自分のところに広がる「海」を表現する創作イベント。創作した作品を「うみ・いろ・かたち展」として展示した。  
主催：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ  
共催：島根県立しまね海洋館アクアス、島根県立大学 地域政策学部 地域づくりコース 村岡ゼミ、アトリエ・スノイロ

### にぎやかな日々 in 松江 (馬喰町バンドのライブ)

[ 2024.10.27 (日) | 島根県民会館 大ホール ]  
こどもおとなも、障がいがある人もない人も一緒に楽しめる馬喰町バンドのライブやロビーでのアート体験、ミニマルシェなどを開催した。  
主催：文化庁、島根県、(公財)しまね文化振興財団(島根県民会館)、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、「にぎやかな日々 in 松江」実行委員会

### オープンミーティング ～石見編～ まちと福祉と芸術文化

[ 2024.11.9 (土) | テルマーレキアミー ]  
2025年2月に開催する、障がいや背景に関わらず誰もがそれぞれの色や音を出し合える音楽会「にぎやかな日々」に向けて、アイデアを出し合うワークショップとミーティングの実施。  
主催：文化庁、島根県、(公財)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場) 共催：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ

### みさとと。あーとなわたしたち2024 美郷町アート展

[ 2024.11.13 (水)～11.19 (火) | みさと館エントランス ]  
地域活動支援センター利用者や町民のアート作品の展示を行い、特別アートイベントデー(11.17 (日))には、町とゆかりのある絵本作家・兒玉季世さんを迎えて絵本の読み語りやワークショップを開催し、だれもが参加できて、だれもが楽しめるアート展の実施。  
主催：美郷町役場健康福祉課、社会福祉法人わかば会、地域活動支援センターあおぞら 協力：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、美郷町立図書館みさと本の森

### R6 島根県障がい者アート作品展プレイベント

[ 2024.11.23 (土) | ふれあいジム・かなぎ ]  
12月開催の「島根県障がい者アート作品展」のプレイベントとして、社会福祉法人いわみ福祉会の「大収穫祭」において、石見神楽などの舞台公演を行う。  
主催：社会福祉法人いわみ福祉会 協力：島根県、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、(公財)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場)、マックスパワーサウンド

### 令和6年度島根県障がい者アート作品展(公開審査会)

[ 2024.12.6 (金)～12.8 (日) | 島根県立美術館ギャラリー ]  
県内の障がいのある方のアート作品の展示、支援者向け公開審査会と作品審査、オープニングセレモニー(表彰式)、鳥取県招待作品の展示。  
主催：島根県、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ  
協力：社会福祉法人島根県社会福祉協議会、島根県知的障害者福祉協会、島根県立大学・島根県立大学短期大学部、あいサポートアートセンター  
連携：公益財団法人しまね文化振興財団、島根県障害者社会参加推進センター

### にぎやかな日々—グラントワダイバーシティいわみ事業—

[ 2025.2.2 (日) | 島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール ]  
障がいや背景に関わらず誰もがそれぞれの色や音を出し合える音楽会、1人ひとりの表現を楽しむ音楽会の実施。  
主催：文化庁、島根県、(公財)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場) 共催：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ 協力：くじらの、音楽ユニット en、TEADA、ヒビノデザイン



にぎやかな日々in松江

### ミュージカル あいと地球と競売人のポスター

[ 出雲公演：2025.2.16 (日) | 大社文化プレイスうらら館だんだんホール / 大田公演：2025.2.24 (月) | 大田市民会館大ホール ]  
30年公演されている、環境問題について壮大であり、すぐそばにある永遠のテーマを描いた県民によるミュージカル。今回、ポスター原画にアートベースしまねいろが紹介した作家・K.akanaさんのイラストが採用された。  
主催：あいと地球と競売人自主企画実行委員会 共催：日本海テレビ 協力：株式会社サンライズ美保関(メテオプラザ)、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、特定非営利活動法人斐川環境 AMY ネット21(斐川環境学習センター)

### 令和6年度島根県障がい者アート作品展巡回展 in グラントワ

[ 2025.2.21 (金)～2.23 (日) | 島根県芸術文化センター「グラントワ」多目的ギャラリー ]  
令和6年度島根県障がい者アート作品展における受賞作品と鳥取県の招待作品の展示。  
主催：島根県、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ 協力：鳥取県「あいサポート・アートセンター」



ミュージカル あいと地球と競売人



令和6年度島根県障がい者アート作品展



島根県立大学松江キャンパス2024 アートフルキャンパス事業



アクアート2024 —しずかてにぎやかなうみ—

# 岡山

支援センター

## 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

### 障害のある人のアートギャラリー

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ※月ごとに作品を入れ替え | 県庁県民室(8、12、2月以外)、岡山空港(8月)、きらめきプラザ(12月)、岡山県生涯学習センター(2月) ]  
福祉施設等の利用者が制作した、絵画等の平面作品を展示。

### ノウフクマルシェ (ステージイベント)

[ 2024.11.17(日) | 下石井公園 ]  
障害のある方やその仲間たちによる、ピアノ演奏、手話歌等を実施。  
主催：岡山県  
運営事務局：岡山県社会就労センター協議会



障害のある人のアートギャラリー【生涯学習センター】



ゆうあい文化祭

### ゆうあい文化祭(岡山県知的障害者福祉展開催事業)

[ 2024.11.28(木)ほか | アリオ倉敷センターコート ほか ]  
県内の知的障害のある方が、施設や地域で日々生活している様子や、社会自立に向かって努力している姿を、写真及び作品・生産物などで紹介。  
主催：岡山県、岡山県知的障害者福祉協会

### 情報発信

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
県内外の文化芸術に関する情報をホームページを通じて発信。

### 障害のある人の芸術文化活動に係る人材育成セミナー

[ 2025.3.18(火) | きらめきプラザ ]  
障害者アートの基礎知識や日頃の支援活動での活用方法等、障害者アートの裾野を広げることを目的に、県内の施設・事業所職員を対象としたセミナーを開催。  
主催：岡山県



障害のある人のアートギャラリー【空港】

ノウフクマルシェ

障害のある人の芸術文化活動に係る人材育成セミナー

支援センター

# 広島

## 広島県アートサポートセンター

### のららの会 県内視察

[ 2024.5.15(水) 10:00～14:00 | 一般社団法人 HAP ]  
 一般社団法人 HAP が運営している福祉事業所の視察と座談会。  
 主催:のららの会 協力:太田川学園、大日学園、ひとは福祉会、友和の里、  
 一般アーティスト、ウッドワン美術館、広島県アートサポートセンター

### のららの会 ～のらりくらの旅 鳥取編～

[ 2024.7.17(水)～18日(木) | もみの木福祉会、あいサポート・アートセンター、  
 砂の美術館、鳥取県庁、アトスペースからふる、鹿野第二かちみ園、鳥の劇場 ]  
 障害のある方やその仲間たちによる、ピアノ演奏、手話歌等を実施。今後の活  
 動のヒントを得ることを目的に、広島県内で表現活動に取り組んでいる、興味  
 のある方が集まり、鳥取県で障がいのある方の表現活動をサポートされている  
 団体を視察した。  
 主催:のららの会 協力:広島県アートサポートセンター、ひとは福祉会、  
 大日学園、友和の里、株式会社ウッドワン、アーティスト保護者

### 学びと体験ワークショップ「絵の具についての勉強会」

[ 2024.8.31(土) 10:00～12:00 | 広島市安佐南区民文化センター 工作  
 実習室 ]  
 絵の具の種類や使い方、特徴などの基本を学んだ。  
 講師:木利画材スタッフ 片山修 主催:広島県 実施団体:広島県アート  
 サポートセンター

### 学びと体験ワークショップ「創作アトスペース」

[ 2024.8.31(土) 10:00～12:00 | 広島市安佐南区民文化センター 工作  
 実習室 ]  
 参加者自身が考え、さまざまな画材を使って創作を楽しんだ。  
 講師:元特別支援学校教諭 細川泉 主催:広島県 実施団体:広島県アート  
 サポートセンター

### 学びと体験ワークショップ 「さをり織り体験ワークショップ」

[ 2024.9.5(木) 13:00～16:00 | 社会福祉法人静和会 ぼぼろ明郷 ]  
 さをり織りの基本知識を深め、効率的な作業工程を学んだ。  
 講師:手織適塾 SAORI広島 塾長、SAORI-hands広島 管理者 たけちよ  
 うこ 主催:広島県 実施団体:広島県アートサポートセンター

### 遠隔ロボットを使った鑑賞サポート

[ 2024.10.5(土)～10.6(日) | 合人社ウエンディひと・まちプラザ ]  
 アーティスト対象。アート・ルネッサンス会場にて、遠隔ロボットを使って鑑賞  
 とイベント参加のサポート。  
 主催:NPO 法人ひゅーるぼん、広島県アートサポートセンター 協力:広島  
 大学、広島支援機器研究会

### アートセミナー&おしゃべり会 ① 「ケアする現場のものづくり ～企画展〈きょうの雑貨〉開催から見えたこと～」

[ 2024.10.12(土) 13:00～16:00 | そらさやキッチン ]  
 2021～22年に鞆の津ミュージアムで開催された企画展〈きょうの雑貨〉で展  
 示された、多彩な実例および商品の実物を多数紹介いただきながら、表現する  
 こと・働くこと・社会とのかかわりなど、福祉/ケアとものづくりをめぐるあれ  
 これについて考え、対話した。  
 講師:鞆の津ミュージアム キュレーター/生活支援員 津口在五 主催:広島県  
 実施団体:広島県アートサポートセンター



アートセミナー&おしゃべり会 ②  
 「アート・ルネッサンスからのインスピレーション  
 ～審査委員が見た作品の魅力～」

### アートセミナー&おしゃべり会 ② 「アート・ルネッサンスからのインスピレーション ～審査委員が見た作品の魅力～」

[ 2024.11.30(土) 13:00～15:00 | 無印良品 広島アルパーク まちの保健 ]  
 障がいのある人の公募作品展「HPAR2024」で入選作品数点を見ながら、審  
 査の裏話や作品エピソードなどを聞き、鑑賞しながら作品の魅力について対  
 話した。  
 講師:Grandeひろしま編集長 平木久恵、アートギャラリーミヤウチ学芸員  
 今井みはる 主催:広島県、広島市、認定 NPO 法人ひゅーるぼん 実施団体:  
 広島県アートサポートセンター

### アートセミナー&おしゃべり会 ③ 「アートの新たな可能性を拓く ～藁エミュージアムの事例から～」

[ 2024.12.19(木) 13:00～15:00 | オンライン(ZOOM) ]  
 藁エミュージアムの福祉とアート、地域とアートをつなぎ、誰もが多様なもの  
 とつながる事例を聞き、参加者からの質問をもとに対話した。  
 講師:藁エミュージアム 学芸スタッフ、NPO 鶴蔵 理事 松本志帆子 主催:  
 広島県 実施団体:広島県アートサポートセンター

### 手話と文字を使った、みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートを見よう～

[ 2024.10.5(土) 10:30～12:00 | 広島県立美術館 2階展示室 ]  
 対話や作品を観ることが好きで、手話通訳や文字情報が必要な方を対象にした  
 対話型鑑賞会。  
 ファシリテーター:広島県立美術館学芸員 岡地智子 主催:広島県、広島県  
 立美術館、広島大学、広島県アートサポートセンター

**けったいなものが見たい～大阪の町屋のおばちゃんたちが始めた小さな事業所のお話～**

[ 2025.1.18(土) 13:00～15:00 | JMSアステールプラザ大会議室 A ]  
 アトリエコーナスの30年分の歴史を聞き、今後の取り組みについて考えた。  
 ファシリテーター：特定非営利活動法人コーナス 代表理事 白岩高子 主催：  
 合同会社E&T らいふスペースともある 協力：広島県アートサポートセンター

**アートの巣箱助成プログラム We are ユニカーズ!**

[ 2024.9.16(月祝)10:00～12:00 / 9.23(月祝)10:00～12:00 / 10.6(日)15:00～17:00 / 10.14(月祝)10:00～12:00 / 11.3(日祝)10:00～12:00 / 11.4(月祝)10:00～12:00 / 11.24(日)13:00～17:00 / 12.1(日)13:00～17:00 / 12.8(日)13:30～15:00 | 東広島芸術文化ホールくらら、東広島総合福祉センター、黒瀬生涯学習センター、東広島運動公園、道の駅湖畔の里福富多目的ホール ]  
 クリエーションワークショップと試演会。谷川俊太郎さんの詩を中心として、ワークショップで試した色々なことを盛り込んで約15分の作品に仕上げた。  
 主催：天辺塔 協力：パピコ

**アートの巣箱助成プログラム 和えるダンス**

[ 2025.1.11(土)～1.13(月祝) | JMSアステールプラザ 1F ギャラリー ]  
 ファシリテーター：玖島雅子 主催：ART COMPLEX HIROSHIMA 協力：  
 KAZOO 内容：インクルーシブダンスワークショップ

**アートの巣箱助成プログラム 音楽でつなぐみんなのハーモニー**

[ 2024.9.30(月) 13:00～15:00 / 11.25(月) 13:00～15:00 / 2.5(水) 14:00～14:45 | ワークショップ西風舎 広島市立己斐小学校 ]  
 音楽を通じて、多様な背景を持つ人々が交流会。  
 主催：ワークショップ西風舎 協力：広島市立己斐小学校



アウトリーチ型 みんなで楽しむ「おしゃべり鑑賞会 IN 就労センターあっぷ」

**アートの巣箱助成プログラム 自分だけの器をつくろう!**

[ 2025.1.31(金) 10:30～12:00 / 2.6(木) 10:30～12:00 | 桜西町町内会集会所、つくしんぼ作業所 ]  
 陶芸の体験ワークショップと展示会。  
 講師：陶芸教室 童夢 大佐古 雅文 主催：特定非営利活動法人つくしんぼ作業所

**アウトリーチ型 みんなで楽しむ「おしゃべり鑑賞会 IN 就労センターあっぷ」**

[ 2025.1.30(木) 10:30～12:00 | 小原中央集会所 絆 ]  
 出張型の知的障がいのある方を対象にした対話型鑑賞会。  
 ファシリテーター：学芸員 岡地智子氏 主催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター

**シンポジウム 福祉 / アート / 教育のコラボレーション 複数組織の豊かな連携に向けて**

[ 2025.2.7(金) 14:00～16:30 | オンライン(ZOOM) ]  
 広島県立美術館、広島県(障害者支援課、文化芸術課)、広島大学、広島県アートサポートセンターが連携して実施してきたプロジェクトの成果と課題を共有し、今後の展望について考える。  
 主催：広島県、広島県立美術館、広島大学、広島県アートサポートセンター

**日韓交流事業「障害と芸術教育における共創」と交流展覧会「New World」交流ウェビナー、展覧会への作品出品、現地での交流事業のサポート**

[ New World 展：2025.1.4(土)～3.12(水) / 交流ウェビナー：2025.2.13(木) / 現地視察・交流会・展覧会鑑賞：2025.2.17(月)～2.19(水) | 漢陽大学博物館、NPO Sprigshine、ソウル市瑞草区ハンウリ・リハビリテーションセンターほか ]  
 交流ウェビナーでの両国の情報交換、現地での障害者アーティスト・保護者・サポーター・研究者による交流、New World 展の鑑賞、NPO・公的施設の見学  
 主催：韓国障害者文化センター、HEADLab(漢陽大学+デザイン教育センター)、漢陽大学、漢陽大学博物館 協力：社会福祉法人三矢会太田川学園、認定NPO法人コミュニティリーダー ひゅーるぼん、広島大学准教授 池田史志、東京学芸大学准教授 笠原広一、一般社団法人アートネットワークス

**YouTube 番組「ひゅるりんぱ」**

[ 2024年5月、8月、9月、10月、11月、12月、2025年3月配信 | 広島県アートサポートセンター YouTube チャンネル ]  
 広島県内のアート情報の発信と様々な表現(アート)を楽しむことを目的にした YouTube 番組。  
 実施団体：広島県アートサポートセンター

**専門家派遣「演劇体験ワークショップ」**

[ 2025.3.1(土) 15:00～17:00 | 社会福祉法人ひとは福祉会 ]  
 スタッフを対象にした「演劇体験ワークショップ」。  
 ファシリテーター：一般社団法人 舞台制作室 無色透明 坂田光平  
 主催：社会福祉法人ひとは福祉会 企画：コーディネーター 広島県アートサポートセンター

**専門家派遣 体験ワークショップ「色を楽しもう！」**

[ 2025.3.15(土) 13:00～17:00 | キュアシス富士見町 ]  
 表現することを楽しむワークショップ。  
 講師：元特別支援学校教諭 細川泉 主催：キュアシス富士見町 企画：コーディネーター：広島県アートサポートセンター

**のらのらの会 広島県知的障害者福祉協会 文化・芸術活動の部 圏域委員会 事例共有会**

[ 2025.3.3(月) 10:30～16:00 | 鞆の浦・燧冶、社会福祉法人あつみの森 ]  
 尾道あつみ麦酒醸造所の見学と音(楽)的・ダンス的など、利用者さんの「動き」「くせ」「行為」などの事例共有会。  
 主催：広島県知的障害者福祉協会 文化・芸術活動の部 圏域委員会

**おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ**

[ 2024.6.16(日) 13:00～16:00 / 7.21(日) 13:00～16:00 / 10.20(日) 13:00～16:00 / 11.10(日) 13:00～16:00 / 12.15(日) 13:00～16:00 / 2025.1.12(日) 13:00～16:00 | 広島市中央公民館 三篠公民館 ]  
 演劇の手法を使った表現ゲームや、チームでの演劇作品 創作の体験のサポート。  
 主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明 協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、アートサポートセンターひゅるる 後援：広島県 会場：三篠公民館

**相談対応**

[ 通年 | メール、電話、対面など、相談者に応じて対応 ]  
 電話、メール、FAX、SNS等のメッセージ、来館等さまざまな方法で相談を受け付け、相談内容に応じた対応を実施。

**情報発信**

[ 通年 ]  
 ホームページ・SNSによる情報発信。

**画材寄付受付**

[ 通年 | 広島県アートサポートセンター ]  
 不要になった画材の寄付を募り、主催事業での活用や必要とされている福祉事業所に配布する。



# 徳島

支援センター

## 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 篠原 稔 作品展

[ 2024.4.27.(土)～5.26.(日) | 徳島県立障がい者交流プラザ 1階プラザギャラリー ]  
 篠原稔氏が制作した油絵8点の展示と作者紹介ビデオの上映。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 訪問調査

[ 通年 | 県内各地 ]  
 施設・特別支援学校・個人を訪問し、芸術活動の現状等について調査。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 第4回全国公募Tシャツデザイン展

[ 2024.7.12(金)～9.18(水) | 徳島県立障がい者交流プラザ ギャラリー ]  
 559点の応募作品の展示及び優秀賞受賞者とクリエイターが協働したTシャツを商品化し販売する。また、入賞作品を県内の屋外2ヶ所での展示。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター 協力：松茂町商工会

### 作品販売

[ 通年 | 徳島県立障がい者交流プラザ プラザショップ ]  
 プラザショップにおいて、1作家1ヶ月間アート作品を展示し販売の機会とする。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「あつまれ！みんなで楽しもう！！」音楽療法体験

[ 2024.6.14(金) | 徳島県立二十一世紀館多目的活動室 ]  
 音楽療法体験。  
 講師：フロリダガルフコースト大学名誉教授 マイケル・ローバッカー氏 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター 共催：徳島文理大学

### 「みんなで一緒に舞台を楽しもう！」誰もが楽しめる舞台を作るために

[ 2024.10.1(火) | あわぎんホール ]  
 聴覚に障がいのある方も一緒に舞台を楽しむためには、どのような対応が求められているのかを、障がい当事者が講師となり座学、ロールプレイングを通して学ぶ。  
 講師：廣川麻子氏（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長） 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター 共催：徳島県文化振興財団

### 「作品ができた後はなし」作品の保管について考える

[ 2024.10.18(金) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 美術作品の整理・保管方法について基礎的な知識を学ぶ。  
 講師：安達一樹氏（徳島県立近代美術館 学芸員） 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「知財って何？契約大事よね！」法律相談

[ 2024.11.5(火) 11.22(金) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 障がい者支援施設と利用者さんとのアート作品管理契約など、著作権などの権利保護に詳しい弁護士との相談会。  
 講師：戸田順也氏（戸田コンサルティング法律事務所弁護士・税理士・中小企業診断士） 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「あら簡単！メディウムがし刷り」版画の表現

[ 2024.11.15(金) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 身近にある材料を使って楽しく表現し、クリスマスカード・年賀状などに応用誰でも気軽に制作できる版画の技法を学ぶ。  
 講師：平木美鶴氏（版画家・徳島大学名誉教授） 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「試してみよう！」表現材料体験

[ 2024.12.17(火) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 表現に使用する様々な材料（用具）の特性を学び、体験する。  
 講師：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター職員 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「あなたのアートで彩る2025年」—2025年カレンダー用イラスト募集—

[ 2024.10.15(火)～ | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 2025年用カレンダーに掲載するイラストを募集。176点の応募作品を審査、掲載作品12点と佳作17点を表彰。カレンダーは、県内企業・団体等に配布。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### みんなの創造フェスタ—2025とくしま障がい者芸術・文化祭— 「障がい者アーティストの卵」発掘展

[ 2025.2.12(水)～2.16(日) | あわぎんホール ]  
 徳島県内の障がい者の制作したアート作品94点の展示すると共に、審査委員による選考を行い優秀な作品13点を表彰。また、全作品を掲載した作品集を制作・配布。巡回展・WEB展も開催。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県文化振興財団



「みんなのはっぴょうかい」



「試してみよう！」表現材料体験



「みんなのディスコ」

「みんなで一緒に舞台を楽しもう！」誰もが楽しめる舞台を作るために

### みんなの創造フェスタ—2025とくしま障がい者芸術・文化祭— awanowa エシカルマルシェ

[ 2025.2.15(土)～2.16(日) | あわぎんホール ]  
 障がい者支援施設で作られた、食品、雑貨などの販売と支援施設が運営するキッチンカーの出店。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県文化振興財団 協力：とくしま障がい者就労支援協議会

### Spring 展

[ 2024.3.20(水)～4.14(日) | 徳島県立障がい者交流プラザ プラザギャラリー ]  
 県内障がい者の制作したアート作品の販売。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 企画委員会の開催

[ 2025.3.11(月) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 支援センターの事業について企画委員に報告および意見交換。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### ホームページ・SNSによる情報発信

[ 通年 | 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターホームページ・Instagram等 ]  
 主催の行事や作品・出演者募集について、また県内外のイベント情報の発信。  
 運営：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 相談記録簿の作成

[ 通年 | 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター ]  
 創作活動についてや、発表などに関する相談を随時受付と情報提供。  
 運営：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### プラザギャラリー貸出業務

[ 通年 | 徳島県立障がい者交流プラザ プラザギャラリー ]  
 プラザギャラリーの貸出調整および、展示アドバイス。  
 管理：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### 「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品巡回展

[ 2025.2.22(土)～3.9(日) | 徳島県立障がい者交流プラザ ]  
 「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品13点の巡回展示。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

### みんなの創造フェスタ—2025とくしま障がい者芸術・文化祭— 「アトリエ・ブルート作品展」

[ 2025.2.12(水)～2.16(日) | あわぎんホール ]  
 認定NPO法人ボバイ「アトリエ・ブルート」（名古屋市）で制作された、施設利用者33名の作品約100点の展示。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県文化振興財団 協力：認定NPO法人ボバイ（名古屋市）

### みんなの創造フェスタ—2025とくしま障がい者芸術・文化祭— 「みんなのはっぴょうかい」

[ 2025.2.15(土)～2.16(日) | あわぎんホール ]  
 13組、136名のダンス・楽器演奏・朗読などの舞台発表と、ゲストの大前光一氏のダンス。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県文化振興財団 ボランティア：徳島文理大学音楽学部学生

### みんなの創造フェスタ—2025とくしま障がい者芸術・文化祭— 「みんなのディスコ」

[ 2025.2.15(土)～2.16(日) | あわぎんホール ]  
 どなたでも楽しめるダンスのイベント。  
 主催：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県文化振興財団 ボランティア：徳島文理大学ダンスサークル



「障がい者アーティストの卵」発掘展

# 香川

支援センター

## 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

### 相談事業

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
文化芸術活動に関する相談を随時受付。

### 運営委員会の開催

[ ① 2024.4.24(水) ② 2024.9.26(木) ③ 2025.3.19(水) | かがわ総合リハビリテーション福祉センター ]  
支援センターの活動状況の報告等。

### アーティスト取材

[ 2024.6.26(水) ]  
県内の障害のあるアーティストを取材。

### アートボランティア養成講座

[ 2024.8.4(日) | かがわ総合リハビリテーション福祉センター ]  
障害者の文化芸術活動に関する講座の実施。

### リズムワークショップ

[ 2024.4.17(水) | かがわ総合リハビリテーションセンター体育館 ]  
元ザ・ブルーハーツのドラマー梶原氏を講師に迎え、ガムテープ太鼓を使用したリズムワークショップを実施。

### アートワークショップ@在宅療養ネットワーク

[ 2024.8.1(木) | 在宅療養ネットワーク ]  
芸術家の横田氏を講師に迎え、絵の具を利用したアートワークショップを実施。

### アートワークショップ@真清水荘

[ 2024.9.11(水) | 真清水荘 ]  
芸術家の千田氏を講師に迎え、模造紙・セロファン・ビー玉・絵の具を利用したアートワークショップを実施。

### キラリ☆と光る展覧会 in 県庁ロビー

[ 2024.8.14(木)～8.23(金) | 香川県庁 ]  
香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を展示。(平面作品・大型共同作品の展示)

### ZENキューブでつなごう展

[ 2024.10.25(金)～11.4(月) | ZENキューブ ]  
香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を展示。(平面作品の展示)

### 自由に羽ばたく展覧会

[ 2024.11.12(火)～12.12(木) | 高松空港旅客ターミナル ]  
香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品および web ギャラリーに展示中作品の一部を展示。(平面作品の展示)

### キラリ☆と光る展覧会 in ひとの駅さんぽんまつ

[ 2025.1.8(水)～1.21(火) | ひとの駅さんぽんまつ ]  
香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を展示。(平面作品・大型共同作品の展示)

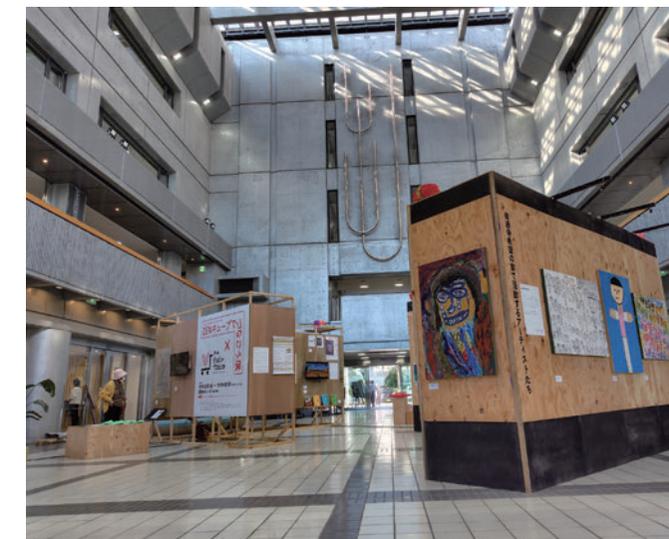
### ブルース・ヒューバナー尺八コンサート

[ ① 2024.6.4(火) | 丸亀さんさん荘・善通寺希望の家 / ② 2024.6.12(水) | 香川県ふじみ園 ]  
ブルース・ヒューバナー氏による日本の伝統楽器の尺八と、ギタリスト諏訪光風氏によるセッションを楽しむ鑑賞会。



ブルース・ヒューバナー尺八コンサート

音楽鑑賞会(バイオリン・ピアノ)



ZENキューブでつなごう展



リズムワークショップ



アートワークショップ@在宅療養ネットワーク



アートワークショップ@真清水荘

### 音楽鑑賞会(バイオリン・ピアノ)

[ 2025.1.23(木) | あじの里 ]  
バイオリニスト青柳氏とピアニスト梅田氏を迎え、バイオリンとピアノによるデュエット演奏会を開催。

### 香川みんなのアートギャラリー

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) | KAGAWAMOVES ホームページ内特設ページ ]  
KAGAWAMOVES ホームページ内に、常設展示型のギャラリーを公開中。

### まちかどアート展

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) | 高松常磐町商店街 ]  
建築現場の仮囲いを利用し、香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を養生シートにプリントして展示(前年度から継続して実施)。

### 活動視察

[ ① 2024.6.18(火) | 真清水荘 / ② 2024.11.19(火) | 障害者活動センター フレンズ ]  
県内事業所が実施する創作活動の様子を視察。

### イラスト入りエコバッグの制作・販売

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) | 香川県社会就労センター協議会 ]  
香川県障害者芸術祭2022に出展された作品の中から3作品を選びエコバッグを制作・販売。(※センターは企画・販売に協力)  
企画・販売: 香川県社会就労センター協議会(前年度から継続して販売)

### 情報発信

[ 2024.4.1(月)～2025.3.31(月) ]  
県内外のイベント情報等をホームページを通じて発信。

# 愛媛

支援センター

## 愛媛県障がい者アートサポートセンター

### 令和6年度 障がい者芸術文化祭 ～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～

[ 2024年10月10日(木)～10月20日(日) | 愛媛県美術館(巡回展については県内6会場で実施) ]

【入賞作品巡回展】

- ・IYO夢みらい館(伊予市) 2024年11月7日(木)～11月17日(日)
- ・宇和島市役所(宇和島市) 2024年11月20日(水)～11月28日(木)
- ・西予市役所(西予市) 2024年12月2日(月)～12月10日(火)
- ・あかがねミュージアム(新居浜市) 2024年12月12日(木)～12月19日(木)
- ・テクスポート今治(今治市) 2024年12月21日(土)～2025年1月7日(火)
- ・愛媛県身体障がい者福祉センター(松山市) 2025年1月9日(木)～1月26日(日)

【募集内容】

平面作品:絵画(油彩、水彩、アクリル、貼り絵、版画、デザインなど)、書(毛筆)

立体作品:陶芸、その他(彫刻、工芸、手芸)など

### 令和6年度 障がい者芸術文化祭 ～愛顔ひろがる えひめのアート広場～

[ 2024年11月16日(土) | 大街道商店街 ]

実施内容:

- ①ステージパフォーマンス(4団体)、ラジオ番組の公開収録
- ②オープンアトリエ(ライブペイント、お絵描き広場、創作体験コーナー)
- ③マルシェ(事業所等で作られた食品や障がい者アートを活用した商品等の販売、作品展示や販売。18事業所等出店)

主催:愛媛県 運営:愛媛県障がい者アートサポートセンター 委託事業者:南海放送株式会社



～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～

### 令和6年度 障がい者芸術文化祭 ～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～

[オーディション:2024年7月13日(土) / ワークショップ:2024年7月27日(土)～2025年1月5日(日)の間に29回] 愛媛県身体障がい者福祉センター他 / 成果発表会リハーサル:2025年1月10日(金) / 成果発表会「音楽劇 PIECE & PEACE」:2025年1月11日(土) 午前・午後2回公演 | IYO夢みらい館 ]

障がいの有無にかかわらず、県内在住の舞台芸術に関心のある方々が参加。  
主催:愛媛県 運営:愛媛県障がい者アートサポートセンター 委託事業者:有限会社中村ファミリーセンター

### 令和6年度 商品化支援事業 補助金交付

[募集期間:令和6年7月24日(水)～12月27日(金) / 補助対象期間:補助対象者決定の日から令和7年2月28日(金) / お披露目会:2025年3月18日(火)]

補助金交付等:愛媛県

【本事業におけるセンターの業務内容】

- ①企業・団体への補助事業の周知
- ②本事業に関する相談
- ③事業計画書の事前確認
- ④企業・障がい者アーティスト・センターの三者協議

### 令和6年度 芸術文化活動を支援する 人材の育成研修会

[ 2024年11月27日(水) | 愛媛県身体障がい者福祉センター ]

アートにまつわる権利のきほん Step3

講師:三浦 友美氏

### 令和6年度 障がい者芸術文化活動 外部指導者派遣事業

[ 2024年8月～2025年2月 | 各事業所 ]

舞台分野:4事業所

美術分野:2事業所



～愛顔ひろがる えひめのアート広場～



令和6年度 障がい者芸術文化活動 外部指導者派遣事業

# 高知

支援センター

## 藁工ミュージアム 分室

### Uプロジェクト 春のミニフェス オリジナルバッグづくりワークショップ

[ 2024.5.12(土) | 高知県立障害者スポーツセンター ]  
福祉施設への相談支援として、オリジナルバッグをつくるワークショップ実施に協力した。  
主催：一般社団法人Uプロジェクト

### ワークショップ「いろんなゲームで遊ぼう！」

[ 2024.6.15(土) | アビリティキッズ ]  
福祉施設への相談支援。放課後等デイサービスのプログラムとして、ワークショップを実施した。  
主催：一般社団法人アビリティキッズ

### 高知地域連携インクルーシブアートプロジェクト 「梶原徹也のリズムワークショップ」への協力

[ 2024.7.14(日) | 高知県立県民文化ホール オレンジホール・ステージ上 ]  
文化施設への相談支援。プラパケツに、ガムテープを貼ってオリジナルの打楽器を手作りし、リズム遊びをするワークショップ。イヤーマフの借り出しや広報、環境整備、事前の会場準備、当日運営に協力した。  
主催：高知県立県民文化ホール(高知県立県民文化ホール共同企業体) / 高知地域連携インクルーシブアートプロジェクト実行委員会 協力：高知県文化施設協議会 / 高知県立療育福祉センター / 日本ダウン症協会高知小鳩会支部 / NPO法人スペシャルオリンピックス日本・高知

### 演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」への協力

[ 2024.9.7(土)、9.8(日) | ミニシアター 蛸蔵 ]  
相談支援事業。四国学院大学と就労継続支援 B 型事業所事業所に通うメンバーの実話をもとに共同制作した演劇作品の上演に協力した。  
主催：四国学院大学マグノリア・カフェ「コミュニティ・シアターを構築する」  
協力：NPO 法人 SAJA 就労継続支援 B 型事業所、四国学院大学パフォーミング・アーツ研究所、藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵

### 演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」関連イベント アフタートーク

[ 2024.9.7(土)、9.8(日) 公演終了後 | ミニシアター 蛸蔵 ]  
即興演劇の手法を用いたワークショップを重ねて行われた作品づくりや、それを通じて生まれた出演者や周りの方たちの変化などについてなどのお話を伺い、福祉と演劇の交わりがもたらす可能性や共生社会について参加者とともに考えるトークイベントを実施した。  
主催：四国学院大学マグノリア・カフェ「コミュニティ・シアターを構築する」  
協力：NPO 法人 SAJA 就労継続支援 B 型事業所、四国学院大学パフォーミング・アーツ研究所、藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵

### 演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」関連企画 出張インプロワークショップ

[ 2024.10.17(木)、11.27(水)、12.13(金)、2025.1.21(火)、2.18(火)、3.18(火) | NPO 法人 脳損傷友の会高知 青い空 ]  
台本のない演劇「インプロ(即興演劇)」を用いた、「いまここ」をみんなで共有しながら、その「場」で展開されるコミュニケーション、とりわけ「対話」に焦点を当てることにより、自分自身のセルフモニタリング、そして他者との関わりについて考えてもらうワークショップ。若手演劇関係者を講師のアシスタントにつけ、人材育成も行った。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 助成：令和6年度高知県競馬組合地域福祉振興基金

### 「難病児・障がい児者・きょうだい児に贈る『デリバリー・パフォーマンス』in 高知」への協力

[ 無償公演 2024.9.20(金)、9.21(土)、9.22(日) / 表現ワークショップ 2024.9.21(土) / 有料公演 2024.9.22(日) | 佐川町立桜座 ホール ]  
重たい病気や障がいにより体験機会が著しく少ない子どもたち、そのきょうだい・ご家族に「劇場空間体験」「パフォーマンスをする体験」を届ける活動への協力。団体と実施会場をつなぎ、難病児・障がい児者・きょうだい児やその保護者・支援者を対象にした無料公演と、一般の方も鑑賞できる有料公演、有料公演の舞台に出演するための難病児・障がい児者・きょうだい児を対象にしたワークショップの実施に協力した。  
主催：特定非営利活動法人 心魂プロジェクト  
協力：はなまるキッズこうち、一般社団法人Uプロジェクト、スマイル・サポートこうち、藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵、特定非営利活動法人みらい予想団

### 市民参加演劇公演「12人の怒れる土佐人」鑑賞支援

[ 2024.9.23(月・祝) | 香南市夜須公民館 マリンホール(舞台上舞台) ]  
相談支援事業。事前の資料配布とタブレット端末への台本投影によるサポートを実施した。  
主催：香南市中央公民館 協力：高知市文化プラザ共同企業体

### いろいろなを楽しむ演劇プロジェクト2024 手話演劇公演「あゆみ(短編)」

[ クリエイション 2024.4~10 / 上演 2024.10.19(土) | ミニシアター 蛸蔵 ]  
2017年から行っている、障がいのある方を含む様々な個性を持つ方や多様な立場の人々が、協働して演劇作品をつくり上演する「いろいろなを楽しむ演劇プロジェクト」の新たな取り組み。手話表現を用いた演劇作品をつくり、上演した。手話表現は外部の聴覚障害当事者や手話通訳者に意見を伺いながら考え、創作を行った。また、上演は「高知演劇ネットワーク演劇」が企画・主催する「蛸蔵ラボ」に参加する形で実施。交流会に聴覚障害当事者や手話通訳者も参加し、ネットワーク構築を図る機会となった。  
企画：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 / シアター TACOGURA



「蛸蔵ラボ」交流会



いろいろなを楽しむ演劇プロジェクト2024 手話演劇公演「あゆみ(短編)」

「ハナカタマサキのおしごと展」



“美術館×遊び場” 演劇をつくってみよう! (演劇づくり)

“美術館×遊び場” 演劇をつくってみよう! (発表公演)



### 権藤説子 presents 誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会 in 高知 東京演劇集団 風 —バリアフリー演劇— 「Touch ～孤独から愛へ」への協力

[ 2024.11.3(日) | 南国市地域交流センター MIARE!(みあーれ!) ]  
視覚や聴覚、発達など障がいのある方に楽しんでいただけるよう、様々な工夫を凝らしてつくりあげられたバリアフリー演劇公演の実施に協力した。  
主催：誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会 in 高知実行委員会事務局  
共催：一般社団法人東京演劇集団風研究所、特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク 協力：高知県、高知県教育委員会、南国市、南国市教育委員会、高知市教育委員会

### 展覧会「ハナカタマサキのおしごと展」

[ 2024.7.13(土)~11.4(月・祝) | 藁工ミュージアム ]  
高知県佐川町在住のミュージシャン・ハナカタマサキ氏のお仕事を紹介する展覧会。独学で学びつづけた音楽や絵画、アニメーション作品などを紹介したほか、彼が音楽を担当した、演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」(2021.7 / 高知県立美術館ホール) や、障がいのある方を含む様々な個性を持つ方や多様な立場の人々が、協働して演劇作品をつくり上演する「いろいろなを楽しむ演劇プロジェクト」も紹介し、新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」の周知を図った。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 協力：アートセンター画楽 / オーテピア高知図書館 / 岡田映像事務所 / 川村雑貨店 / すさきまちかどギャラリー / 前田実津 / 吉田剛治

### 展覧会「ハナカタマサキのおしごと展」関連イベント “美術館×遊び場” 演劇をつくってみよう!

[ 演劇づくり 2024.8.21(水)~25(日) / 発表公演 2024.8.25(日) | 藁工ミュージアム 展示室内 ]  
「ハナカタマサキのおしごと展」の展覧会場を舞台に、観る人も一緒に楽しめる演劇をつくり発表するワークショップ。アシスタントを公募し、美術や舞台劇関係者の人材育成も行った。

「第4回 藁工アンパン アートバザール」  
会場下見・相談会

[ 2024.11.1(金)～11.4(月・祝) | 藁工ミュージアム ]  
アートバザールの会場下見ができる、作品の展示方法や展示・販売に必要な準備物、作品の販売価格の設定等展示と販売に関する悩みや困りごとの相談会。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 共催：アートセンター画楽

「第4回 藁工アンパン アートバザール」

[ 2024.11.15(金)～12.15(日) | 藁工ミュージアム ]  
・ 設営期間 2024.11.15(金)～11.21(木)  
・ 鑑賞期間 2024.11.15(金)～12.1(日)  
・ 販売期間 2024.11.23(土)～12.1(日)  
・ 作品引取期間 2024.12.4(水)～12.15(日)  
「アートだ!」と思う作品なら、誰でも販売することができる展覧会。昨年度参加したアーティストの声を反映し、希望する方には「アーティスト応援BOX」を作品展示場近くに設置。BOXにはコメントも投稿できるようにした。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 共催：アートセンター画楽

「第4回 藁工アンパン アートバザール」  
交流会

[ 2024.11.30(土) | ミニシアター蛸蔵 ]  
アートバザール出展者、来場者(来場予定含む)、関係者による交流会。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 共催：アートセンター画楽

「第4回 藁工アンパン アートバザール」  
投げ銭パフォーマンスステージ

[ 2024.11.30(土) | ミニシアター蛸蔵 ]  
「アートだ!」と思うパフォーマンスであれば、ジャンルを問わず誰でも参加できる事前申込制のステージイベント。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 共催：アートセンター画楽

「第4回 藁工アンパン アートバザール」  
振り返り会

[ 2024.12.4(月) | 藁工ミュージアム ]  
次年度の企画に活かすためのヒアリングを行い、アーティストやその支援者の交流を図るための振り返り会。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 共催：アートセンター画楽



「第4回 藁工アンパン アートバザール」振り返り会



「舞台芸術鑑賞支援サービスから、誰もが参加できる環境づくりについて考える」



新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」

「知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム 劇場って楽しい!! 2025 in 高知」映画体験「すみっこぐらし ツギハギ工場のふしぎなコ」への協力

[ 事前研修会 2024.12.20(金) | 高知県立県民文化ホール1階 第11多目的室 / 映画上映会 2025.2.8(土) | 高知県立県民文化ホール ]  
文化施設への相談支援。音の大きさや響き、照明による明暗、鑑賞者としてのルールを鑑賞しながら学び、「劇場」という場所を体験する体験型プログラムの実施に協力した。  
主催：高知県立県民文化ホール(高知県立県民文化ホール共同企業体) 企画・制作：国際障害者交流センタービッグ・アイ



「第4回 藁工アンパン アートバザール」

新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」関連企画  
「舞台芸術鑑賞支援サービスから、誰もが参加できる環境づくりについて考える」

[ 2025.1.25(土) | ミニシアター蛸蔵 ]  
障がいの概念や特性、対応方法、鑑賞支援サービスの概要などを学びながら、障がいの有無に関わらず誰もが楽しんで参加できる環境づくりについてみんなで一緒に考える研修会。鑑賞支援サービスや障がいの社会モデルの考え方などについて学ぶ基礎編と、劇場スタッフが具体的に環境整備を学ぶ実務編の2部構成で実施した。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 協力：公益財団法人高知市文化振興事業団

新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」上演への協力

[ 2025.3.9(日) | 高知市文化プラザかるぼーと 四国銀行ホール ]  
・ 出演者、サポーター募集 2024.7～8  
・ クリエイション 2024.10～2025.3  
2021年7月に本委託事業の一環で創作・上演した演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」の再演。新たな脚本には出演者個人にまつわる話が手紙という形で取り入れられ、10代～80代の出演者25名と11名のサポーターが集まり、バンドによる生演奏での音楽劇を上演した。また、舞台説明や字幕タブレット・音声ガイド端末の貸出といった鑑賞支援サービスも実施。舞台説明は一般の方にもとても好評だった。  
主催：公益財団法人高知市文化振興事業団 共催：高知県 助成：一般財団法人地域創造 協力：高知市文化プラザ共同企業体/藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵/オーテピア高知声と点字の図書館/国際障害者交流センタービッグ・アイ

なお、鑑賞支援サービスは以下の事業によって実施された。  
(2025大阪・関西万博に向けた文化芸術ユニバーサル・ツーリズムプロジェクト連携プログラム 新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」鑑賞支援サービス事業)  
主催：一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁 協力：障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク 連携・協働：障がいの文化芸術活動推進知事連盟 委託：令和6年度日本博2.0事業(委託型) 連携・協働：障がいの文化芸術活動推進知事連盟 委託：令和6年度日本博2.0事業(委託型)

わらこ Sou Sou 室

[ 利用者の希望に合わせて適宜開室 | わらこ Sou Sou 室(藁工ミュージアム内) ]  
「想像」と「創造」を楽しむことを目的にした誰でも創作活動を行うことができる事前登録制アトリエ。さまざまな材料や道具を取り揃え、好きなように創作活動を行うことができる環境を整備し、常駐スタッフが、必要に応じて創作活動の相談に応じ、創作へのアドバイスや活動のサポートを行った。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵

創作ワークショップ「わらこ Sou Sou 室 Presents」  
「描きかきちょきちょきべッタベタ」

[ 2024.10.6(日)、11.4(月・祝)、12.8(日)、2025.1.25(土)、2.2(日)、3.20(木・祝) | わらこ Sou Sou 室(藁工ミュージアム内) ]  
藁工ミュージアムにあるいろいろな材料を使って、具象的な表現にとらわれない創作を楽しむワークショップ。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵

高知連携インクルーシブアートプロジェクト  
出張わらこ Sou Sou 室 in 土佐清水  
「いろいろな材料を使ってつくってみよう!」

[ ①2025.3.15(土) | 土佐清水市立中央公民館 ②2025.3.16(日) | 土佐清水市立市民体育館 ]  
お菓子やティッシュペーパーなどの空き箱、段ボール類、トイレトペーパーやテープなどの芯類、チラシや折り紙、画用紙などの様々な紙類、ペットボトルのキャップなどいろいろな材料を好きなように好きなだけ使って、具象的な表現にとらわれず好きなように創作を楽しむワークショップを、県西部にて行った。  
主催：土佐清水市立中央公民館、NPO 法人スポーツクラブスクラム、藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 協力：土佐清水市立文化会館

展覧会「ちいさな蔵の展覧会 2025」

[ 2025.3.30(日)～6.29(日) | 藁工ミュージアム ]  
・ 1期 2025.3.30(日)～4.20(日)  
・ 2期 2025.4.27(日)～5.18(日)  
・ 3期 2025.6.8(日)～6.29(日)  
高知県在住の方を中心とした障がいのあるアーティストや作り手による作品を紹介する展覧会シリーズの第6回目。30年以上にわたり描き続けた茨木隆敏のドローイングを3期に分けて紹介する。  
主催：藁工ミュージアム・NPO 蛸蔵 協力：海辺の杜ホスピタル/山中雅史

相談事業

[ 通年 | 藁工ミュージアム他適宜 ]  
電話、メール、FAX、SNS等のメッセージ、来館等さまざまな方法で相談を受け付け、相談内容に応じた対応を適宜行った。

作家・作品調査

[ 通年 | 個人宅、福祉施設、文化施設等 ]  
作家・作品の調査。主に、県内在住もしくは出身の方や県内を拠点に活動する施設等を訪問して行った。

情報収集

[ 通年 | 個人宅、福祉施設、文化施設等 ]  
障がいのある方の文化芸術活動に関する情報収集。主に県内で情報収集を行った。

# アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画

## 企画概要

支援センターを対象に実施したアンケートにおいて、「中国・四国ブロック内で連携を取るとしたら、一体どのような部分での連携を望みますか?」との質問に対して、全ての支援センターが「福祉・芸術分野の人脈づくり」と回答しました。その結果を受けて、広域センター・パスレルとして協議を重ねた結果、支援センター、福祉分野、芸術分野における新たなネットワークづくりを主目的として本企画は誕生しました。

本企画は、障害のある方およびその方々に関わる事業所とアーティストとのコラボレーションによる創作活動の「体験」にスポットを当て、これまでアート活動に関わったことのない事業所や障害のある方にアート活動を体験する機会を持っていただくことを目的としたプロジェクトです。

また、派遣するアーティストの人選、体験する内容を含め、当センターと連携しながら探索するプロセスを経験していただくことで、事業所や障害のある方が事業終了後も継続してアート活動を行なっていくことができるようになることを目指しています。

## 実施対象

以下に挙げるいずれかに該当する団体等を対象に実施。  
就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所、共同生活援助事業所、放課後等デイサービス事業所、福祉型障害児入所施設、医療型障害者入所施設



アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画チラシ (表面)

## 活動内容

- 手順に沿って当センターと連携しながら、アーティストとどのような活動を体験するか(美術分野・舞台芸術分野、他)、派遣依頼するアーティストの選定、訪問支援日および体験内容の計画を行う。
- 計画を元に、アーティスト派遣による活動の体験(1回)を実施する。体験終了後必要書類を提出し、全体終了後には全参加事業所が一堂に介して座談会(振り返り会)を開催する。

## 福祉に風を

平谷尚大 芸術文化活動支援コーディネーター

福祉職などの対人援助の仕事は、一般的に、心や体に負担がかかりやすいと言われています。それは、自分以外の「誰か」の幸せを支えるために、「私」の心や体のエネルギーを注ぐ必要があるからです。さらに、長く続けるうちに支援が作業のように感じられ、いわゆるマンネリ化を招くこともあります。目の前にいるのは「私」と同じく心を持つ人間ですが、毎日同じことを繰り返すうちに、支援が形だけのものになってしまうこともあり、時にはそれが本来望ましくない支援につながることもさえます。だからこそ、福祉の現場には常に新しい風を吹かせ、重くなった空気を循環させる工夫が必要なのです。

本企画は、福祉職のマンネリ化を乗り越えるきっかけのひとつとなるかもしれません。利用者の方々が、これまで体験したことのないアート活動に真剣に取り組んだり楽しんだりする姿は、福祉職の皆さんにとって新鮮な光景として映ると思います。完成した作品に心を動かされることで、利

用者の方々の新たな視点で見ることができるともかもしれません。そして、作品を通じてまた別の誰かの心を動かす可能性もあります。さらに、福祉職とは異なる視点から現象を捉えるアーティストとの交流は、福祉職の皆さんにとっての“第3の目”となることもあります。

福祉は閉ざされたものではなく、さまざまな分野とつながり続けていくことが大切です。「福祉×○○」のような形で、常に新しい可能性を模索し、拡がりを持たせていくことが求められます。福祉は、もっと開かれたものであるべきだと考えています。

今年度も、中国・四国ブロックで新たに6つの事業所がアート活動に取り組み、第一歩を踏み出しました。この一歩は、アート活動にとどまらず、さまざまな新たな取り組みへとつながる可能性を秘めています。この歩みが、福祉職の皆さんにとってマンネリを乗り越え、「私」や「誰か」にとっての大切な一歩となることを願っています。

アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画

●実施対象  
中国・四国地方の以下に挙げるいずれかに該当する団体等(以下「事業主体」という。)とする。  
- 障害者総合支援法下の施設  
就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所、共同生活援助(グループホーム)事業所  
- 児童福祉法下の施設  
放課後等デイサービス、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設

※上記以外でも本プロジェクトへの参加を希望される場合は、当センターまでお問い合わせください。

●募集条件  
(1) 中国・四国地方に住所(所在地)のある事業主体であること。  
(2) 障害のある方(身体障害、知的障害、精神障害/高次脳機能障害、発達障害を含む)その他の障害のある方)が含まれる活動であること。  
(3) 事業を確実に実施できる体制を備え、運営/実施、体験レポートの作成責任をもって行うことができる事業主体であること。  
(4) 特定の宗教、宗派、政治的信条を有しない事業主体であること。  
(5) 暴力団又は暴力団員が役員又は運営者となる団体等の活動にわたる事業主体ではないこと。

●活動内容  
(1) 当センターと連携しながら、アーティストとどのような活動体験するか(美術分野・舞台芸術分野、他)、派遣依頼するアーティストの選定、訪問支援日および体験内容の計画を行う。  
(2) 計画を元に、アーティスト派遣による活動の体験(1回)を実施する。  
(3) 体験終了後、必要書類を提出する。  
※ご提出いただくもの: アンケート、活動中の写真、体験レポート(※1枚程度)

●実施場所  
原則として、実施主体が普段活動の拠点としている場所での活動とする。

●実施に際しての留意事項  
提供された団体へ当センターより下記費用をお支払いします。  
1) 訪問アーティストの交通費  
2) 合計4万円までのその他経費(アーティスト選定、材料費など)

●募集団体数  
各県1団体

●応募方法  
(1) 別紙1「申込届出情報」に必要事項を記入し、メール、FAX、郵送にて以下までご提出ください。  
(2) 募集締切 令和6年6月7日(金) 17:00必着  
(3) 選定日 7月30日(金) 高知市電話相談2丁112-42  
中国・四国 ArtNet Support Center passerelle (パスレル)  
メール: passerelle@blue-sky-kochi.com FAX: 088-803-4100

●決定の通知について  
(1) 申込みが多数の場合は、当センターと依頼のあった県の支援センターと協議を行い選定します。  
(2) 結果決定の通知(通知は全ての申込み者に対して文書でお知らせします。なお、審査の結果については非公表とし、審査結果に対する異議申し立てはお受けできませんので、ご了承ください。

●事業実施主体  
NPO法人高知県友の会高知支会/中国・四国 ArtNet Support Center passerelle (パスレル)  
〒780-8014 高知市高知市広野町2丁目12-42  
Tel: 088-803-4100 Fax: 088-803-4420  
Mail: passerelle@blue-sky-kochi.com

※本事業は、厚生労働省令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業の一環として実施しています。

実施内容および実施スケジュール

募集期間: 2024年5月10日(金)~6月7日(金)

passerelle

アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画チラシ (裏面)

## 活動場所

原則として、普段活動の拠点としている場所での活動とする。

## 募集団体数

各県1事業所(最大9事業所)

事業所にアーティストを呼んでみよう! -ワークショップ-

STEP 1 事業所内でのニーズ調査

ニーズに合致するアーティストの調査

2-1 アーティストを探す: インターネットでアーティストを探しましょう。または、既に展覧会や公演を見たことがあって、呼んでみたいアーティストがいれば尚良いです。

2-2 アーティストについてのホームページを閲覧したり、インタビュー記事などを読んで、展覧会や公演を見ることが出来れば実際に観覧しましょう。

2-3 なぜこのアーティストに呼んでほしいのか、言語化しましょう。

2-4 アーティストを事業所に呼ぶという視点で、新しいアτζナの起り方(情報の取り方)を共有しましょう。

アーティストへの依頼

3-1 展覧会や公演などでアーティストと直接話す機会があれば、意見を述べて話してみよう。その時に依頼しても良いと思います。その場合、正式な依頼文を後日送ります。

3-2 ホームページを持っているアーティストなら、メールや問い合わせフォームから依頼をしてみよう。

3-3 ホームページを持っていないアーティストなら、お手紙を郵便するか電話で連絡をとってみよう。

3-4 アーティストによって得意な連絡手段が違ったり、もしくはチェックする頻度が連絡手段によってまちまちなので得意に合った連絡方法を選びましょう。

現状の把握

4-1 依頼が出来たら、アーティストに事業所へ定連でもらい、事業所の様子を見せよう。その中で事業所の課題を共有してもらったり、共有したりすることが重要です。下見をすることはアーティストがプログラムを考える上で重要です。

4-2 期間ではなく(アーティスト派遣事業として、それぞれのアーティストがそれぞれの事業所や利用者となにをするかは、事業所や利用者の皆さんを見ておいてもらった方がより鮮明になると思います。

アーティストからの企画内容の提案

5 下見後にアーティストから企画がでてきます。この企画内容を経て、当日までの準備など詳細を確認しましょう。もし新しい内容があれば、この段階でアーティストに確認し、修正や変更も依頼しましょう。受注発注の関係ではありませんので、一緒に良い企画を作るといふ意識を忘れないようにしましょう。

アーティストとのコラボレーションの実施

6 当日は臨機応変に準備をしましょう。終了後はスタッフ・利用者さん・アーティストとアンケートを通して振り返りを行い、それぞれの立場からの見方について共有しましょう。

中国・四国 ArtNet Support Center passerelle

事業所にアーティストを呼んでみよう  
~アーティスト派遣に繋げるための手順書

鳥取

ノームの糸車

鳥取県西伯郡南部町／就労継続支援B型事業所



招聘アーティスト「げたお塾」の皆さんがジャンベを叩く様子

事業所の紹介

2009年より鳥取県南部町で羊毛フェルトの出張講習や北欧をテーマにしたカフェ、アウトドア体験やミニライブが開催できるガーデン、地域のフルーツを使ったドライフルーツなどの製品を知的障害、精神障害、発達障害の方々を対象にした福祉サービス事業所(就労継続支援B型)として提供させて頂いています。

応募の動機

地域で活動されておられるアーティストの方とつながり、利用者様が楽しく参加できる企画を考えたいと思いながらなかなか実行に移せずにいたところ、こちらの「アート活動のファーストステップに伴走する企画」を知り応募させて頂きました。

招聘作家

げたお塾の皆さん

ジャンベの演奏やワークショップを各地で開催されている「げたお塾」の皆さんに、当事業所のガーデンにお越し頂き、利用者の方々とドラムサークルやミニライブを実施して頂き、生のアフリカの音楽に触れ楽しく交流させて頂くという企画でした。



げたお塾の皆さんと音楽に合わせて自由にダンス



ドラムサークルで利用者さんがジャンベを叩く様子

音に合わせて体を動かすワークショップの様子

当日は天候の関係でお向かいの小学校の体育館をお借りしての実施となりましたが、参加して頂いた利用者さんの楽しそうな様子や普段見ることができない表情に触れさせて頂き、このようなアートに触れる機会を持つことの大切さを実感しました。アーティストの皆さんへの謝礼など、もう少し相談させて頂きながら進めた方がよかったと思いました。しかし、自分たちでは忙しさに紛れなかなか実施することが出来なかったこのような機会に向かう後押しをして頂き、大変有意義な機会を頂けたと感謝しております。ありがとうございました。

**参加者の様子**  
とても楽しそうに参加されていて、普段見ることができない表情をたくさん見ることができました。後日、たびたび話題に上がるくらい楽しい時間を過ごせたようです。

**今後の展望**  
今回のことをきっかけに、今後いろいろなアートに触れる機会を作っていきたいと思います。



初めてのジャンベ演奏に戸惑いながらも演奏を楽しんでいた

広島

ころる

広島県広島市／放課後等デイサービス事業所

招聘作家

島村祥太さん しょうたダンボールマン

- ①しょうたダンボールマンの作品を紹介してもらう
- ②ダンボールやいろいろな道具を使って好きなものを作る

事業所の紹介

「子ども一人一人の色を発揮する場所を作る」というビジョンのもと、お子様に合わせたプログラムを立案し、個別支援を行っております。また、居場所としての機能を担う、保護者支援や関係機関連携を行う等幅広い支援を行い、お子様が過ごしやすい環境を目指して支援しています。

応募の動機

事業所でできる表現活動（工作等）に制限（時間、スキル等）があり表現活動の難しさを感じていました。お子様がいろいろな経験ができる機会を用意したいと思っていたところ、本企画があることを知り、即応募を決めました。



しょうたダンボールマンのマスクをかぶってポーズ！

本企画に参加するまではアーティストの方に依頼しようと考えたことはありませんでした。アーティストの方への依頼方法や必要経費等を詳しく教えていただいたのでスムーズに依頼することが出来ました。また、打ち合わせ等にもスタッフの方が同席頂き、適宜アドバイスを頂けたのでアーティストの方にも安心していただけたのではないかと思います。当日、お子様が伸び伸びと作品に取り組む様子やできた作品を嬉しそうに見せる様子を見て、本企画に参加できてよかったなと思いました。



作品制作の様子

今回の企画で制作した巨大な盾



参加者の様子

自由に作るのではなく作成するものを見通しを立てる必要があるのでとは考えていましたが、お子様から「●●が作りたい！」と意見があったため急遽好きなものを作成することにしました。しょうたさんの作品を見てイメージを広げたり、あらかじめ作りたいものを決めて参加していたりと誰も悩むことなく作り始めていました。また、しょうたさんや本企画のスタッフさんにご協力いただく形で様々な工夫（点灯する、磁石で開閉する、竹串で頑丈にする）を盛り込んだ作品を作ることが出来ていました。できた作品をいろいろな方に見せて嬉しそうにされているお子様が多かったです。

今後の展望

当事業所だけでは限界だったこと（職員のスキル等）もアーティストの方に教えていただくことで様々なことに挑戦できることを知りました。お子様にいろいろな経験を提供できるように今後も様々なアーティストの方に依頼をしていきたいと思っております。



しょうたダンボールマンに助言をいただきながらワーク ショップを行う様子

徳島

ぶれむきっず

徳島県西郡石井町／児童発達支援・放課後等デイサービス事業

招聘作家

多田さん 樹脂粘土細工工房 JACK

樹脂粘土細工を作り、売られている JACKの多田さんに様々な動物の作り方や粘土の扱い方を教えてもらう。

事業所の紹介

ぶれむきっずは令和6年に OPENしたばかりの新しい施設です。当事業所では「育てよう、未来につながる自信の芽」をモットーに様々な体験活動を取り入れ、子供達の得意を見つけ、自信につながるような支援をし、将来の希望・夢に繋げてもらえるようにと活動しています。

応募の動機

今まで様々な体験を企画していましたが、なかなかアーティストさんを招致してまではできていなかったため、プロジェクトのチラシを見て、「これだ」と思い応募しました。



出来上がった作品を使ってストップモーションアニメを制作

なかなかどなたかに、来所していただきワークショップを開催する機会がなかったので、職員にとっても良い経験となりました。アーティストさんもワークショップは初めてとのことだったのですが、「こうするのはどうだろうか?」とお互いに提案することができ、一緒になってこの企画を作り上げていけたように思います。

参加者の様子

3歳～11歳と幅広い年齢層でしたが、子供達もすごくイキイキとした表情で、想像力を膨らませながら、思い思いの物を作っていました。「先生見て!」と講師の先生に見てもらい、誉めて頂いた時の表情は忘れられません。すごく良い機会となりました。また保護者も数名招いたことで、保護者の方から「子供との会話も増え貴重な時間でした」との感想もいただくことができました。できた作品は数個玄関に飾っており、来所の度に「これ僕作ったやつよ」等自慢げに教えてくれています。

今後の展望

今回参加できなかったお子さんもいます。時間の関係で子供達からのリクエストのクレイアニメまでは到達できなかったため、また講師をお招きしてクレイアニメまで作れるように継続し、誰かの得意に繋がるよう企画していきたいと思っています。また今回の経験を活かして、粘土細工以外のアーティストの招致等も検討していきたいと思っています。



アーティストの多田さんに教えてもらいながら作品を制作する様子



ワークショップで完成した作品たち

香川

たまも園

香川県高松市／障害者支援施設

招聘作家

曾根三千代さん

多摩美術大学油画科卒業、同大学院美術研究科修了後、  
帰郷し制作と絵画教室の講師等として活動。

企画への参加者は、利用者のうち希望者となりました。実施にあたっての、塗り絵の下絵や色鉛筆、クレヨンは先生にお持ちいただきました。場合によっては、単なる塗り絵ではなく、少し幅を広げようということで、絵具もお持ちいただき、絵具がクレヨンをはじくことによる表現も体験してもらいました。ワークショップの進め方としては、塗り方等を指示するのではなく、利用者の自由にまかせながら、曾根先生が個々人にあったアドバイスを適宜行うといった形としました。そのため、数枚の作品を仕上げた人や丁寧に塗る人は持ち帰って完成させるなど、様々でした。

事業所の紹介

当園は、昭和50年に香川県内で初めて、重度の脳性麻痺などの障害で日常生活に介護を必要とする方が生活する施設として、香川県により設置されました。高松市の南部にあり、近隣には特別支援学校や障害福祉サービス事業所などが集中しており高松市の福祉ゾーンとなっています。

運営は、社会福祉法人かがわ総合リハビリテーション事業団が隣接するかがわ総合リハビリテーションセンターとともに指定管理者として行っています。入所利用者は約100名、通所利用者は約13名、短期入所者は数名となっており、大規模な施設です。

応募の動機

入所利用者の中には、熱心に塗り絵をされている方がいます。ただ、単に塗るだけとか、早く塗るだけになってしまっているような状況もありました。塗り絵は芸術活動だと思うので、塗り絵を通して、もっと自己表現的なことができればいいのになと感じていました。また、国の施策の方向性として自己決定が重視されてきています。塗り絵を通して自己表現することの喜びを知り、ひいては自分の人生についても自己決定する意欲を喚起することができればと、少し夢を持ちました。1回の教室でこうしたことが実現するとは考えていませんが、今回の活動がそのきっかけ、あるいは、一石を投じることにできればと思い応募しました。

個人的には、「はじめてのおつかい」的で非常におもしろく  
自身も活性化されたような気がします。

ただ、園全体でみると新型コロナウイルス感染症が流行り出したここ数年、  
レクレーション活動も外部からの講師招聘はなくなり、

園内でも全体が交流しながらではなく、小さなグループ毎に行われるようになり、  
それに伴い、利用者人間関係等も一段と狭いものとなり変化に乏しい日常生活になっていました。

また、職員も長引くコロナ対応（今夏も大規模クラスターが発生）等で疲弊してきているところがありました。  
今回のイベントにより、非日常性の大切さが再認識され、マインドの転換のきっかけになればと思っています。



作品制作中は笑顔で溢れていました

それぞれが好きな塗り絵のデザインを選んでワークに挑戦しました



曾根先生に指導を受ける様子



完成した作品を持って笑顔でバシャリ!

参加者の様子

仲間と一緒に取り組んだということで、皆さん、集中力が高まっているように感じました。また、好きなように塗ってくださいという方針だったので、塗り方にも個性が出て、いい笑顔だったかなと思います。参加した利用者の中には、痲痛を起すと手が付けられない方もいましたが、塗り絵をしているときは、先生にアドバイスを受けながら、ニコニコして取り組んでいました。また、積極的に対人関係を作りたい方がいる方からは、「次、いつ先生は来てくれるのか?」とその後もよく聞かれますし、手作りの塗り絵の年賀状を作って先生に渡して欲しいと持ってくるなど前向きな動きもみられます。いずれにしても、つまらなかったという人はいないのではないかと思います。

今後の展望

当園は、来年設立50周年を迎え、記念行事を実施することになっています。個人的には、ありきたりの講演会等ではなく、利用者や職員等がこれまでの50年を振り返り、そしてこれからの50年を想うようなイベントにできればと思っています。例えば、当園には園歌というものこれまでありませんでしたが、50周年を期に募集したところ、入所者の方からは園の歴史を歌い込んだ曲が、職員からは園の四季を歌い込んだ曲が応募されてきました。今回の塗る、描くというのはより自由度が高い表現方法だと思いますので、みんなで何か作ることができたらと妄想の翼を広げています。

愛媛

ぽこあぽこ

愛媛県宇和島市／就労継続支援B型事業所



今回招聘したアーティストの和泉明子さん

招聘作家

和泉明子さん

『いろんな画材を使ってキャンパスに描いてみましょう!』  
 キャンパスを目にし、アーティストの説明を聞いている間に、利用者さん達のワクワク感が部屋に充満したかのようでした。みんな一斉に思い思いの画材に挑戦し、楽しそうに描き始めました。布キャンパスにローラーで塗り始める人、大胆にポストカラーを使い手で描き始める人、いつもとは違う活動的な描画のエネルギーを感じました。アートの楽しさをより深く体験出来ました。



ワークショップ開始前の様子

事業所の紹介

就労継続支援B型作業所です。押し花、地元特産ヒオウギ貝、レジン等の雑貨製作販売、利用者さんの絵画をポーチ、Tシャツに製作し販売、また委託洗濯業務を行っています。

県内のアート展で入賞したのをきっかけに、描画時間を作り、希望者は自由にスケッチブックに描いていました。昨年利用者さんの描いた絵をTシャツにして、クリスマスプレゼントにしましたがとても出来栄良く感じ、これをきっかけにアートTシャツ、ポーチなどの製作販売を始めたところです。

応募の動機

画用紙、色鉛筆、マーカー、絵具など作業所で提供できるものは限界があり、もっとアートの世界の広がり、利用者さんに知らせたいと願っていました。まさに有難い企画でしたので応募しました。



ワークショップに取り組む様子



真っ白なキャンパスに自由に描いていく様子

ローラーを使ってダイナミックに作品制作をする様子

参加者の様子

ワクワクしている人、自分のキャンパスをしみじみ眺めて満足そうな表情をしている人、みんな楽しみ満足していると感じます。また、同時期に都内のホテルロビー絵画展参加決定、12月フェスタにて絵画展示販売参加と一度に拡散して頂く機会ができたことも、利用者さんたちの大きな励みになっていると思います。

今後の展望

今後もアーティスト指導をお願いし、職員では至らないアート学習を継続していく予定です。自分の作品が多くの人の目に留まる喜びを知った利用者さん達が、今後も生きる楽しみとし、将来生活の糧に繋がっていただくと願いつつ、努力していきます。

願っていた描画の世界を少し広げて頂いたと実感し、嬉しく思います。

これまで見ることの無かった利用者さんの大胆さも知り、エネルギーも感じました。

一番に思うのは日々の暮らしの安定感にアートが関わっていると感じ、良い変化を目にできる事です。

高知

もみのきっず

高知県高知市／放課後等デイサービス事業所

招聘作家

松崎賢也さん レザークラフト作家

吉岡一洋さん 高知大学地域協働学部 教授

【活動内容：レザーコースター作り】

今回のワークショップは小学生・中学生を対象に行いました。当日の学びを深めるために、アーティストに事前課題を準備していただきました。害獣被害にあった森林の写真をご提供いただき、害獣についての情報は与えず、その写真を見て感じたことを子どもたちに自由に書いてもらいました。そして、当日は、アーティストから害獣についてのお話を聞かせていただき、害獣がもたらす人への影響、環境問題などを学習しました。学びを深めたうえで、実際に駆除された獣の革を使って、コースター作りをしました。実際にアーティストが使用している道具を使って革のカットや型抜きをし、コム糊で貼り合わせて仕上げました。個性あふれたレザーコースターを完成させることができました。



イベントのために制作したチラシ  
制作：吉岡一洋さん（高知大学地域協働学部 教授）

事業所の紹介

わたしたちは、医療法人が運営する児童発達支援事業所です。未就学児から中学生の発達障がいのあるお子さんに対して、医療と連携しながら、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・保育士がチームとなって支援しています。子どもたちそれぞれの持っている感性や個性を尊重し、『楽しい!』『大丈夫!』『できた!』をお子さん自身が実感できるように関わりながら、日常での困り感(生活動作、対人スキル、コミュニケーション、学習、運動など)が軽減できるようサポートしています。子どもたちが持って生まれたすばらしい力が発揮できるように、一人一人に合わせたオーダーメイドの支援を目指しています。

応募の動機

当事業所の放課後等デイサービスの療育プログラムの一つに、ものづくりを中心としたプログラムの日があります。身近な道具や材料を使った作品づくりを通して、手指の使い方や視知覚のトレーニングをしています。また、ものづくりを通して、予算や作業の計画を立てたり、材料の購入をしたりなど生活に必要なスキルも練習しています。今回の活動のように、プロのアーティスト作家をお招きし、経験したことのないアート活動に挑戦することで、新しいことに挑戦するワクワク感を感じてもらい、創造性を育てるきっかけになればと思い、応募させていただきました。本物の材料や専門的な道具に触れ、自分で作った作品を大切に使う経験は、子どもたちにとっても良い経験となったと感じています。

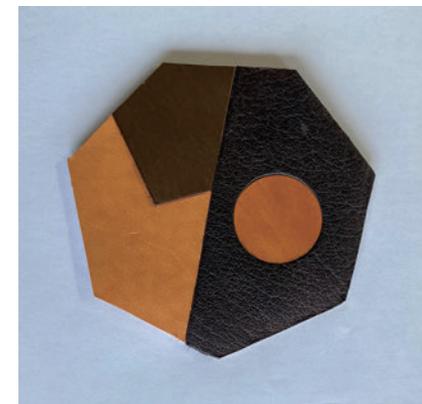


招聘作家、松崎賢也さんからの説明を聞く子どもたちの様子



ワークショップで使用した様々な動物の皮（レザー）

作品制作に取り組む様子



完成したコースター

アーティスト探しはとても難航しましたが、一つのご縁から素敵な講師の方に巡り合うことができました。当日は、革細工を実施するだけでなく、害獣について考える時間を与えて下さった為、支援者も一緒に考えることができました。革細工についても革の触感、匂い、道具の仕様など、本物に触れることは、大変貴重な経験となりました。また、今回のアート活動を通して、アーティスト探し、依頼、打ち合わせまで、経験したことのない業務に携わることができ、スタッフにとっても深い学びになったと共に、バスレルさんにも丁寧にご教授いただき感謝の気持ちでいっぱいです。

参加者の様子

今回、害獣を初めて知るお子さんも多くいましたが、写真を使ってお話して下さったので関心をもって聞くことができ、普段よりも積極的に質問をしたり答えたりする姿が見られました。レザーコースター作りでも、様々な獣の革や道具などに触れて、作業をしていくうちに、「これ仕事にするわ」と話すお子さんもいて、未来に繋がる楽しさを感じたようでした。手先が不器用なお子さんが多いですが、完成後は、自分で作り上げた達成感や作る喜びが感じられ、誇らしげな表情をしていました。毎日持ち歩いているお子さんもいて、ものを大切に扱うという観点においても、この活動が良いきっかけになったのではないかと感じます。

今後の展望

この企画に参加させていただいたことで、アート活動の第一歩を踏み出せました。今回ご協力いただいたアーティストの方や高知大学地域協働学部さんとのご縁を大切に、来年度もアートイベントに取り組み、お子さんたちの可能性を更に広げていきたいと考えています。

## ふりかえり座談会

【参加者】

問田智也 こどもサポート広場ころる 川島麻記 もみのきっず  
 木村彩 ふれむきっず 中澤彩睦 もみのきっず  
 酒井了子 ぼこあぼこ 河内一裕 たまも園  
 岡林美由紀 もみのきっず 吉田尚代 ノームの糸車

【聞き手】

平谷尚大 中国・四国 artbrut support center passerelle  
 北添紫光 中国・四国 artbrut support center passerelle

——まずは各事業所から今回行った取り組みについて教えてください。

**問田** 今回、ダンボールアーティストのしょうたさんをお招きしてイベントを開催しました。企画を進めていくにあたり、事前に通所している子どもたちにアンケートを取らせていただいた結果、ものづくりに興味のある方が多かったので、その方向で検討を進めていきました。その後、パスレルさんが事業所に打ち合わせに来られた際に、偶然見つけたイベントのチラシに掲載されていたアーティスト（しょうたさん）を「こんな方もいるよ」という形で紹介をしてくださり、打ち合わせの後にさっそく連絡をしてみたところ、すぐに快諾をしていただきました。打ち合わせの段階では、しょうたさんが普段イベントの際などに着用しているダンボール製のマスクを制作するワークショップを企画していたのですが、子どもたちに実際にイベントするよという告知をさせてもらったときに、「他のものもいっぱい作りたい」というお子さんが多くいらっちゃって、急遽、マスクだけではなくて各々が好きなものを制作するプログラムに変更しました。当日はしょうたさんの作品もたくさん持ってきていただいたのですが、本当にダンボールで作られた作品なの？と疑うようなすごい作品ばかりで感動しました。子どもたちも作品を見たり触れたりすることができてとても良い経験になったなと思っています。子どもたちの自由な発想で作品の制作ができるのかちょっと不安な部分もあったんですけど、子どもたちがしょうたさんの作品を見てインスピレーションを受けてみんなも各々が、これを作りたい、あれを作りたいという想いをしっかり形にしていってくれたので、しょうたさんにもパスレルさんにもすごく感謝しています。



こどもサポート広場ころるでのダンボールアートワークショップの様子

**木村** 私たちの事業所では、事前に子どもたちにどんなことがしたいか聞いた時に、粘土で遊びたいという意見がたくさん出ました。通所されている小学生がシルバニアファミリーとかを使ってストップモーションアニメを作っていて、その延長線上で制作した作品でストップモーションアニメを作りたいという話が出ました。そこから、徳島県内在住のアーティストで、粘土を使って可愛い作品を作っている人がいないかなと探したところ、樹脂粘土工房 JACKさんの存在を知り、当日は粘土で作る色々な可愛い作品の作り方を教えてもらいました。うちの事業所には3歳から4歳ぐらいのお子さんも通所されているので、小さなお子さんには保護者の方も同席していただいてイベントを行いました。実際に取り組んでみて、小さなお子さん達にとっては自分たちの想像しているものを作るっていうのはちょっと難しかったかなと感じた部分もありましたが、粘土の感触を楽しんだり、思い思いの形を作ってみたりっていうのはそれぞれがすごく楽しんでくれていたなと思います。イベントが終わった後も、玄関に飾っている当日作った作品の飾り方を変えて写真撮ってみたり、私たち気づかない間に子どもたちが触って物語を作っている感がすごくあります。

**酒井** ぼこあぼこでは2年ぐらい前から事業所で絵を描く取り組みを行ってきました。私たちにできることは画用紙やマーカー、色鉛筆を提供することくらいだったので、利用者の絵画の世界を広げてあげたいなという想いがずっと自分たちの中であつたので、今回の企画では絵画の指導をしてくださるアーティストの方を探しました。アーティストの方が決まるまでに二転三転しましたが、企画では私たちの想いにぴったりなアーティストの方に来ていただけました。ワークショップが始まると、手に絵具を塗りたくって直接キャンパスに描いたり、大胆にローラーを使って作品を描く方など本当に様々でした。企画が終わった後も、利用者さんの描かれた作品が受賞したり、県外企業に作品を評価してもらって展示をさせてもらったりとアート活動を通して様々な方面に活動が広がっていくのを感じています。

**岡林** 私たちの事業所では、来ていただくアーティストの方を決めるのにかなりの時間を要しました。色々検討していく中で、高知大学地域協働学部の吉岡教授の存在を知り、面識はなかったので飛び込みでメールをさせていただき、ご相談をしました。その中で、県外でレザークラフトのアーティストとして活動されている松崎さんをご紹介いただき、今回の企画が実現しました。松崎さんは現在兵庫県で活動されていますが、高知県出身ということで、ご協力いただけないか交渉するため、最初はオンラインで会議の場を持ちました。その中で、松崎さんは獣害問題にも取り組んでおられて、駆除された獣の革を使って小物や鞆を製作されていることを知りました。今回の企画では、単にものづくりをするのではなく、子どもたちに今の社会で問題になっている環境問題にも触れてもらいながら、松崎さんが実際にお使いになっている本物の道具を使ってレザーコースターを制作するというワークショップ

を企画しました。また、ワークショップで制作した作品を長く大事に使うという経験も子どもたちにしてもらいたいなという想いも込めて今回この企画をさせていただきました。そういった目的も持って取り組んだので、今回の企画では獣害問題について、アーティストの松崎さんから事前課題を出してもらいました。事前課題では、1枚の山の写真を松崎さんにご提供いただきました。写真には、荒れた山とそれから鹿によって表面の皮が剥がされた木が写されていて、子どもたちには、この写真をみてどんなことを感じますか？ということを考えてもらいました。当日は、この事前課題について、松崎さんと子どもたち、スタッフも交えて写真を見て感じることを話し合い、その上で、松崎さんから日本が抱える生物多様性の保全という話題を獣害をテーマにお話していただきながら、その問題が僕たち私たちにどう影響しているのかということまで子どもたちにもわかりやすい表現で伝えていただきました。私たちの事業所に通う子どもたちは主に小学生ですし、発達障がいの特性を持っていますので、理解が難しい部分もあるのかなと思っていましたが、かなり興味を持ってくれて、中には非常に獣害問題について詳しいお子さんもいて、子どもたちなりに環境問題について考える良い機会になったのではないかなと思っています。当日のワークショップでは、鹿、猪、馬、牛などの革を使ってコースター作りに挑戦しました。制作の過程では、作業をする前に一工程ずつに区切って説明をしてもらいながら進めることで、集中して一つ一つ説明を聞きながら制作に取り組むことができていました。最終的にはそれぞれの思い描く作品ができたのですごく良かったかなと思いますし、先日、再度松崎さんが高知に来られた際にも、お礼のメッセージとマーブリングしてデザインしたカードをお渡しし、そういった交流も続いています。

**川島** 今回初めてこのような機会をいただき、本当に勉強になりました。子どもたちの素敵な表情を見ることができ、貴重な体験をさせていただいたこと感謝しております。子どもたちがただ単に作品を作るだけでなく、先生とのやりとりの中で「僕は将来、先生のお店で働く！」と宣言したお子さんもいらっちゃって、先日お届けしたお礼のお手紙の中に「11年後に先生のお店で働かせてください」というメッセージを書くなど、その子にとっての夢や趣味につながった体験ができたんじゃないかなと嬉しく思います。ありがとうございます。

**中澤** 今回、企画から全て携わらせていただきました。初めての経験であつたので難しかったところもたくさんありましたが、とても勉強になりました。当日はデザインした形に革を型抜きする作業を担当したのですが、完成した作品をとっても嬉しそうに毎日持ち歩くお子さんもいて、物を大切に扱うよといった観点でも今回の活動を通して深い学びになったのではないかなと思います。

——これまで数年間この企画を行なってきた中で、教育的な要素も含めた事前課題まで考えて実施した事業所はなかったのでもって驚きました。事前課題などの案の提案はアーティストの松崎さんから提案されたものですか？

**岡林** 制作するコースターはすごく素敵なものだったんですが、ただ作品を作ってもなって思うところが実はあって。学んだ知識をどう使うかは本人次第ではあるんですが、ただ作って楽しかったで終わるのではなくて、動物だからと言って粗末にははいけないし、でも動物も悪さをしているっていう現状を子ども達にも知ってもらいたいという想いが私たちにはありました。解決しにくい問題だし、答えがある問題ではないのですが、今回の企画がそういった部分に触れる機会になってほしいと思い、先生方にご相談しました。当初は、事業所で獣害問題について事前に子どもたちと少しディスカッションするつもりでしたが、松崎さんの方からいくつか山の写真をご提供いただき、いろいろ情報を入れずに子ども達が写真を見てどう感じるか聞いておいてもらいたいとお話がありました。高知大学の吉岡教授からも、インターネットなどからいろいろ情報を取ってきてただ知識を得ることよりは、写真をバツと見て子どもが何を発想するかということからスタートして、その後で子どもたちの反応や感想を確認しながら情報を入れていこうかということ企画の内容が決まっていきました。最初は獣害問題について知ってほしいなっていう安易な発想だったんですが、松崎さんと吉岡教授の方からより面白みのあるご提案をしていただきました。

**河内** たまも園では塗り絵のワークショップをしました。私は現在、たまも園の園長として施設で働いています。園内を見て回ると、塗り絵の作品が



もみのきっずのワークショップ前に松崎さんから子供たちに出された「宿題」

多く飾られていて、普段の生活の中で塗り絵が好きで取り組んでいる方が非常に多いですね。単に塗るだけではなくて、芸術家やアーティストの先生にちょっとアドバイスをいただいたら、制作する作品の幅ももっと広がるのではないかなと思うところがあって、今回この企画に申し込みをさせてもらいました。アーティストの方を探す過程で少し苦労をしたのですが、パスレルさんに相談したところ、香川県の障害者芸術文化活動支援センターを紹介していただき、そのセンターの方からの紹介で今回講師としてきていただいた曾根先生をご紹介いただきました。当日は、参加した方に自由に好きな下絵を選んでいただき、自由に自分なりの方法で塗ってもらいながら、先生にそれを見てアドバイスを頂くといった形で実施しました。自由に描いてもらうようにしたことで、それぞれの方の個性が活かされたのかなというふうに思っています。アートって何か物を作るっていうことは、自己表現という意味でもすごく大事なんだろうと思っています。障害のある方の自己決定権の尊重っていうか、障害のある方々の意思を、どういうふうに引き出すかっていうのが昨今大切になってきているところで、今回の企画で実施した塗り絵でも、自分の表現をして楽しかったなというところが、自己決定の結果ですから、自分の今後の生活の仕方、例えば施設で生活する、場合によってはグループホームでちょっと頑張ってみようかなとか、すぐにはつながるとは思っていませんけれども、このような活動が今後そういったことに繋がれば良いなと思いつつ今回の活動を行いました。

**吉田** ノームの糸車では、鳥根県で活動されているジャンベグループ『げたお塾』の方々に来ていただき、音楽と一緒に楽しむ企画を考えました。職員が中心となってアーティストとの打ち合わせから謝礼等の交渉まで行ってもらいました。結果としては、メンバーさんからすごく楽しかったという声が聞かれてとても良かったと思います。なかなか音楽をみんなで楽しむ機会が普段あまりなかったので、みんなで音楽を楽しんで、その後参加していただいた方々との交流の意味も込めて、ハーブチキンやパーベキューなど一緒に食事する機会を設けました。午後からは、プロの方々にライブをしていただき1日盛りだくさんの内容で楽しく過ごしました。参加された利用者さんもととても楽しそう、普段見ることのできない顔が見れてとてもいい経験になりました。

——企画を実施した後、利用者さんや職員の皆さんに何か変化はありましたか？

**問田** 今回のワークショップを通じて、すごく自信を持って子もいます。ワークショップが終わってから1ヶ月くらいの期間が過ぎましたが、今でも「みんなでこれ作ったよね」って紹介してくれるお子さんもいらっしゃいます。ワークショップの中でとても大きなダンボールの盾を作られたお子さんがいらっしゃったんですけど、サバイバルゲームでその盾を実際に使用

して戦うっていうことをされたりもしています。

**酒井** 何より利用者さんに自信がついて顔つきが変わったこと、それから作品を通してご家族に認められたことの喜びというか、そういったものを感じているように思います。また、企画が終わった後もアーティストの方には2ヶ月に1回の頻度で定期的に事業所に来ていただいでいて、毎回たくさん刺激をいただいでいます

**川島** 職員側として私が感じたことは、アーティストの方に依頼するまでの流れがよく理解できたことと、実際にやってみるとメール文章をひとつ書くのもすごく難しく、色々な方にアドバイスをいただきながら書いた経験がとても勉強になりました。子どもたちも、企画を通して動物の革というものに興味を持って、自分たちが持っている物の中にもあるかもしれないと身の回りを探す姿もありました。

**岡林** 企画を通してもう一点ねらっていたのは、子どもたち、特に発達障がい特性から物を大事にすることが苦手なお子さんが多いんです。後片付けをしない、無くしものが多い、それから使っている道具が落ちてても拾わないとかそういった苦手な部分があって。ただ、それを片付けなさい、拾いなさいと言うことが私たちの役割ではなくて、やはり自分の持ち物に



ほこあぼこでの絵画ワークショップの様子

対する愛着を持つというか、思い入れがあって、大事に使っていくことを経験してもらいたい。革は経年変化して、色合いが変わってくるところもいいです。言葉で伝えるとすぐに忘れてしまうことも多いのですが、作品として制作したコースターを見ると、あの時面白かったなとか、あんな先生来ていたなとか、神戸ってどんどころだろうとか、その子なりに思いを巡らしてほしい、そういう想いを持ちながら今回の企画を実施しました。子ども達が出来上がった作品をすごく嬉しそうに誇らしげにお母さんに見せていたので自己肯定感も上がったでしょうし、何よりお母さんたちが「私がやりたかった」と皆さんおっしゃっていて、子どもたちからすればお母さんが羨ましがするような活動を僕はやったんだと誇りに思ってもらえた所もすごく良かったかなって思っています。

——今回の企画ではアーティストを調査するところから実際にアート活動を実施するところまで基本的にパスレルのお手伝いはなく事業所の方で進めていってもらったと思います。その中で大変だったことや苦労したことについてお話をいただけたらと思います。

**問田** そうですね。私自身困ったらすぐにパスレルさんに相談していたので困り感はあまり感じませんでした。強いてあげるとするならば、やっぱりアーティストの方との打ち合わせであるとか、今回、しょうたさんが初めてのワークショップだったっていうのもあったので、双方で見通しをすり合わせる作業に難しさがあったなと感じました。イベントに対しての職員の思いっていうのは結構みんな統一できていた部分はあって、事前にこの企画に採択される前からスタッフに相談していたので、どちらかということちょっとワクワクがあったんじゃないかなと思っています。うちのスタッフは、みんなイベントの日はお子様と同じように楽しむっていうのは意識をさせてもらっていて、今回もすごく見ても楽しかったし、お手伝いするのとても楽しかったとみんなで話しています。

**木村** 初めに頼みたいと思ったアーティストはFacebookを通じて連絡したんですけど、返事がなく、お手紙を出させてもらったんですけど、不在というか通知が返ってきちゃって。アーティスト探しにはとても苦労しました。また、アーティストの方も今回が初めてのワークショップの経験で、お互いよくわからないまま進んじゃったのかなっていうのはちょっとありました。企画に応募した段階ではまさか採択されないうちかと思って応募しましたが、採択されてからは一緒にアンケート取ったり、当日使用する紙粘土はどれにしようかと選定する過程でみんなで協力しながら取り組むことができました。

**酒井** アーティストの方にたどり着くまでの苦労が一番でした。たくさん調べてたくさん依頼をかけて、やっと当日来ていただけるアーティストの方に辿り着くことができました。そこに辿り着くまでが本当に辛かったです。



ふれむきっずでの粘土細工 ワークショップの様子

だけど、アーティストの方を調査したり依頼したりする過程で、職員の団結は深まったかなと思います。

**河内** 私は今回この企画に参加してみて、ちょうどいい手助けの量とタイミングだったなと感じています。自分たちで進めていく中で、つまずいた時に助言をもらえる相談先があって、例えばパスレルさんに相談したら、次は香川県の支援センターと繋がる事ができて。すべて与えられてしまうと自分たちの力についてはついていけないと思うので、そういった意味でも今回の企画に参加して良かったなと思います。

**岡林** 今回、奇跡的に松崎さんと繋がる事ができたのですが、最初は本当にどうしようと思っていました。高知大学の吉岡教授と繋がれたのも、たまたま高知大学に行った時に地域協働学部の情報を知ることができて、偶然にも繋がる事ができました。今回、実際に活動にチャレンジしてみて、最初からたくさんお手伝いをしていただくよりも、やってみてダメだった時に相談をするというスタイルの方が、自分たちの力にはなりやすいのではないかなと感じました。

**河内** もみのきっずさんのお話を聞いていて思ったのですが、高知県ってジビエとかとても有名ですね。なので、いわゆる動物を捕まえるところからスタートして、それは食べることもできるし、その革を使って今回のような製品を作ることもできる。もう少し時間をかけるとまたいろんな人を巻き込めて面白くなって思いました。

**岡林** ありがとうございます。私、実は将来の夢がそこにもあって、農福連携のようにそういういいことにも挑戦してみたいと思っています。他県ではすでに取り組んでいる地域もあって、高知県でも何かできることはない

かと考えているところですが、しかし、革のなめしをしているところが少なく、県内だけで完結することが難しかったり、高齢化の問題もあったりで課題はいくつかあるのですが、いつかは取り組んでみたいと考えています。

——この事業の実施前後で利用者さんや職員の方々を含め何か変わったことがあれば教えてください。

**問田** そうですね。自分たちの意識は大きく変わったなと思っています。私たちの事業所では個別対応が中心で、訓練的な関わりを中心に行っています。工作に関する微細運動だったりそういった訓練的要素は意識して取り組んでいるんですけど、今回のこの企画を実施してみて私たちが色々用意せず、お子さんが自分でこれを作りたいというところに向かっていき、その中でいろいろ工夫していく、その途中途中で話をしながら変更していったり自分の思いで制作していくというところは、アートというか工作活動の持つ良い点だと改めて思いました。訓練的な要素に加えて、子どもたちの思いを形にしていってというのも非常に有意義だなと感じたので、今回の経験を活かして今後も活動できたらなと思っています。



たまも園での塗り絵ワークショップの様子

体験するとやっぱり子どもたちも自分たちがいつも過ごしているところで活動することができるのでより安心してできるのかなというのも思ったので、今後も様々な形で取り組んでいけたらいいなと思っています。

——最後に一言ずつ、今回本企画に参加してみた感想をいただきたいと思っています。

**問田** 今回の企画に参加するまでアーティストの方に依頼してみるっていうのを考えたことはありませんでした。打ち合わせの中でチラシを見て、これはいいなと思ってすぐに飛びついたんですけど、その中で依頼方法だったり、必要な経費とかを詳しく教えていただいたので、すごくスムーズに企画を進めることができたかなと思います。あと、打ち合わせの時にも、同席していただいて、適宜こういう方向性がいいんじゃないかといったアドバイスをいただいたので、自分たちにとっても、初めて講師をされたしよたさんにとっても安心して取り組むことができたのではないかと思います。当日、子どもたちがすごくのびのびと作品の制作に打ち込まれていたのも、本当にやってよかったなと心から思いました。本当にありがとうございました。

**木村** 運動以外のことで他の外部の方を呼ぶ機会があまりなかったので、とてもいい機会でした。企画段階から打ち合わせ、当日の企画実施まで全てにおいてこれまではあまり体験することができなかったことと感じています。子どもたちにとっても粘土で自分の思いを表現するという機会も得られたことと、感覚過敏のお子さんもいたんですけど、自分のペースでしっかりチャレンジすることができていたので、今後も定期的にアート活動を取り入れていきたいなと思っています。ありがとうございました。

ました。

**酒井** 今年は事業所にとってホップステップの年だったんですけど、この企画に参加できたことによって私たちの行動の背中を押してもらったように感じます。ありがとうございました。

**河内** 企画の実施を通して、私自身が活性化されたという感じがしています。この感覚が、みんなに、職員の方や利用者さんにも広がっていけばいいと思っています。非常に楽しかったです。ありがとうございました。

**川島** 今回初めてのことで私にとって本当に良い経験をさせていただきました。子どもたちの普段見れない姿が見れたり、将来に繋がる可能性のある取り組みを行うことができてとても良かったと感じています。パスレルさんとかうやって繋がれたこと、吉岡先生や松崎先生と繋がれたこと、本当に全てがご縁だと思っているので、このご縁を大切にこれからも活動を続けていきたいと思っています。

**中澤** 私は普段、作業療法士として利用者の方と触れ合って仕事をするのがメインなので、普段行う仕事とは全く違った経験をする事ができてとても良かったなと思っています。利用者もすごくキラキラしていて、普段とは違った姿を見ることができ、私たちのモチベーションも高まるとてもいい経験ができました。このようなきっかけを与えてくださってありがとうございました。

**岡林** 子どもたちがアートに取り組む機会があるといいなと、最初はそういう小さな種から始まった私たちの想いなんですけど、私個人としては、今日

参加してくれている2人のスタッフがめっちゃくちゃ困って準備をしてくれていたんですね。もう、それがすごく嬉しくて(笑)。

何か意地悪みたいに聞こえるかもしれないですが、全然、そういった意味ではなくて。普段の業務では2人は割と何でもできるんですけど、経験のないことや外部への発信などは、どうしても管理者がやってしまいがちで、なかなか機会がありません。今回のようにスタッフが主体的に進めていく活動は、私たち事業所にとってもすごく大事で、このことをきっかけに日頃の業務も、新しいことが広がっていくんじゃないかという期待を込めて2人には中心となって準備を進めてもらいました。それから、今回対応してくださった松崎さんは、ワークショップのご経験は多くないということだったので、松崎さんにとっても初めてのいい経験になったと教えていただきました。高知大学の吉岡教授に関しては、地域と協働していくことが目的の学部だと思うので、今後は、例えば現役の学部生とコラボをして企画を実施してみたいなと思っています。発達障がいのある子どもたちが地域で暮らしていくために、たくさんの人にこの子たちの特性を知ってもらいたいし、この子たちと関わるコツも知ってもらいたいという想いがあります。子どもたちが地域で違和感を感じずに豊かに暮らしていくためには、もっと多くの人に事業所の存在や発達障がいのある子どもたちの存在や特性を知ってもらいたいと考えているので、そういった意味で今後も多くの方々とコラボレーションしながら取り組みを継続していきたいと考えています。貴重な経験をありがとうございました。



ノームの糸車でのドラムサークルワークショップの様子

**木村** 通所されている方の中で特段何か変わったっていうのはあんまり感じられていませんが、絵画とかアートかそういうことで外部講師を呼ぶということはこれまで私たちはやってこなかったんで、今回の企画がいいきっかけになって、今後のイベントや企画にも反映されてくるんじゃないのかなっていうのは思っています。今までは事業所の外にお出かけて何か体験するっていうのをよくやっていたんですけども、事業所に来てもらって



もみのきっずのイベントで獣害問題について学習する様子

# アートデリバリープロジェクト

## 中国四国巡回型アートプロジェクト2024

### 事業概要

前年度（令和5年度）のブロック会議で各県の支援センターや県担当者から要望が多かったのが、中国・四国ブロック内での合同企画展の開催でした。その背景にはパンデミック後の新たな世界観でのネットワーク形成の強化、芸術文化活動に取り組んでいる人や取り組もうとしている人の発表機会と交流機会の創出という目標がありました。一方で、主催を各県の支援センターの持ち回り制にするには人的資源の確保、時間的な制約などの課題があり、多くの県からは抵抗感を感じました。そこで、中間支援組織として広域センターであるパスレルがその目標に向けての活動を提案し、イニシアティブをとりましょと企画したのがこの企画です。

アートデリバリープロジェクトの大きな特徴は単独巡回展などの類ではなく現地の活動へ「出前（デリバリー）する」という部分です。これは、一緒に取り組む県の支援センターが「受け入れ先」になるのではなく、現地で行われている企画やこれから始まろうとしている事業に「一品追加する/コラボレーションする」という内容です。

令和6年度は香川県の「ZENキューブでつなごう展」、山口県「第30回山口県障害者芸術文化祭」、徳島県「ふらっと KOKUFU みんなであそぼうの日」の3箇所にデリバリーしました。今後、毎年2〜3県にデリバリーをしていく計画です。

今年度デリバリーするコンテンツにはメニューとして下記を計画しました。

#### (1) 展覧会を作る技術、展示技術の受け渡し

- ・ 展覧会の会場に絵画などを展示する壁面が無い等のインフラ的課題へ臨機応変に取り組む技術
- ・ 展示作業を一緒に行うことで、展示レイアウト、照明、キャプション作成など基本的な展示技術の伝授
- ・ これまで手探りでやってきている現地の関係者の不安の払拭に寄与する要望への応答

#### (2) 中国・四国ブロック内の各県支援センターからの推薦（選抜）作品の展示

- ・ これまで県外での発表経験の無い作家のセレクト
- ・ 今後も精力的に制作を続けていく意思を感じる作家のセレクト
- ・ 他県作家作品を知る機会の創出、作家同士の出会いの機会の創出

#### (3) 広域センターパスレルがこれまで取り組んできた主催事業に関する展示

- ・ なんてそんなんエキスポ、ビデオプレゼント、アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴奏する企画、パスレルメタバースプロジェクト

#### (4) 中国・四国エリアに拠点置くアーティストのポートフォリオのショーケース

- ・ 作家としてステップアップを目指す方にパスレルがお勧めしている手法はポートフォリオを作成することです
- ・ プロのアーティストのポートフォリオを閲覧できる機会をつくれます
- ・ 中国四国エリアにいるアーティスト情報を知りたい事業所などへの情報提供機会の創出

#### (5) 予算が限られた中でもなんとか工夫して行ってみるDIY情報保障

- ・ 多様な障害特性に応じた情報保障に頭を悩まされている事業者は多く、パスレルも一緒に悩む
- ・ 既存の情報保障には大きな予算がかかり、それも悩みの種ですよね、という部分をパスレルも一緒に悩む
- ・ では、なんとか工夫して、例えばDIYで、目標としている情報保障に手が届くこともあるかもしれないので、パスレルも一緒に工夫してみる
- ・ 得られた知見を共有し、なんとか工夫する輪を今後広めていく

#### (6) いつもと違う誰かと一緒に作品鑑賞をしてみる「ベチャクチャ鑑賞会」

- ・ 作品鑑賞は誰と一緒に見るかによって見え方や感じ方が変わることがある
- ・ 静かに鑑賞しなくて良い時間をあえてつくってみよう
- ・ 一緒に作品鑑賞したら面白そうだなという人と呼んでみよう
- ・ 対話型鑑賞の様に型にハマったものにしないようにしよう

【ディレクション】 ディレクター：土谷享  
 【アートディレクション】 アートディレクター：徳弘希伊 サブディレクター：一般社団法人パンタナル（阿部航太、児玉美香）

### アートディレクション

#### 徳弘希伊 アートディレクター

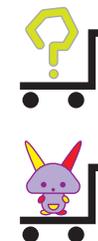
1999年高知県生まれ高知県在住。2022年高知県立大学文化学部文化学科卒業。小学1年生のときに交通事故で頸椎を損傷し、全身麻痺に。2022年春からKOSUGE1-16の土谷享氏とデザイナーの阿部航太氏からデザインについて学び始め、2024年からは学びながらフリーランスでデザイナー活動を開始。幼少期から慣れ親しむジャパニーズアニメや映画、同世代音楽シーンのメディアミックス、また20世紀後半のポップアート等に影響を受けたフォルムやカラーが得意。

### ビジュアルアイデンティティ

#### ロゴデザイン



#### アイコンデザイン



なんてそんなんエキスポ

パスレルメタバースプロジェクト



ビデオプレゼント



アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴奏する企画



県支援センター推薦作品



ベチャクチャ鑑賞会

### ビジュアルアイデンティティ



広報物（チラシ/ポスター）

会場パナー

# ZENキューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト



障害のある方とともに音楽活動を行ってきている障害福祉サービス事業所 WALKS が事務局となり香川県の支援センター「香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES」を運営されています。

得意領域である音楽活動ではなく美術分野での発表機会創出とそのスキル向上に力を入れており、KAGAWA MOVESの新規事業として今年度より動き始めた「ZENキューブでつなごう展」へのアートデリバリープロジェクトを実施しました。

## 展覧会情報

### ZENキューブでつなごう×アートデリバリープロジェクト

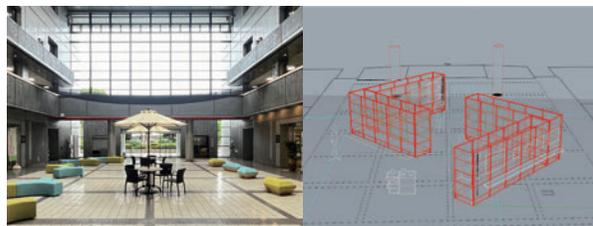
日時：令和6年10月25日(金)～11月4日(月) 9:00～17:00  
 会場：普通寺市総合会館「ZENキューブ」(香川県普通寺市文京町2丁目1-4)  
 作品：普通寺希望の家の皆さんの作品(10作品)  
 中国・四国ブロックの県支援センター推薦作品(8作品)  
 香川県きらりと光る芸術祭(障害者芸術祭)からの選定作品(10作品)  
 パスレルの活動紹介

[アーティストポートフォリオショーケース]  
 笠井伸二、穴戸純、島田正道、千田豊実

[ベチャクチャ鑑賞会]  
 講師：小笠原 新也(耳の聞こえない鑑賞案内人)  
 日時：11月19日(火) 13:30～15:30  
 会場：展示会場にて

主催：香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES  
 共催：普通寺希望の家、中国・四国 Artbrut Support Center passerelle(パスレル)  
 協力：あいサポート・アートセンター、愛媛県障がい者アートサポートセンター、  
 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ、  
 ZEN キューブ(指定管理者：穴吹エンタープライズ株式会社)、  
 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、広島県アートサポートセンター、  
 岡山県子ども・福祉部障害福祉課、薬工ミュージアム 分室

[なんとか工夫してやってみるDIY情報保障]  
 チラシの音声案内は、Dropboxというオンラインクラウドサービスを利用し、チラシ情報の音声データをQRコードにして発信しました。スマートフォンやタブレットでQRコードを読み取れば、専用アプリがなくても再生可能です



展示前の会場

展示壁面が皆無の会場での絵画作品展示ということで、必要な壁面積を確保し、かつ自立する構造を計画



10月23日 資材搬入、壁面構造体の組立 10月24日 作品展示作業



展覧会期間中の様子



### [パスレルの取り組み]

- ・アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴奏する企画
- ・なんでそんなんエキスポ(記録映像)
- ・パスレルメタバースプロジェクト(デモ映像)
- ・ビデオプレゼント(映像)
- ・パスレルレポート
- ・アーティストポートフォリオショーケース



[なんでそんなんプロジェクト]  
 作者名：村木実乃里  
 作品名：ガムテープのタネ  
 サイズ：不定  
 素材：ガムテープ  
 ファイル名：ガムテープのタネ.jpg



[島根県]  
 作者名：鹿島大佑  
 作品名：花  
 サイズ：縦 79cm × 横 54.3cm  
 素材：紙、水性ペン

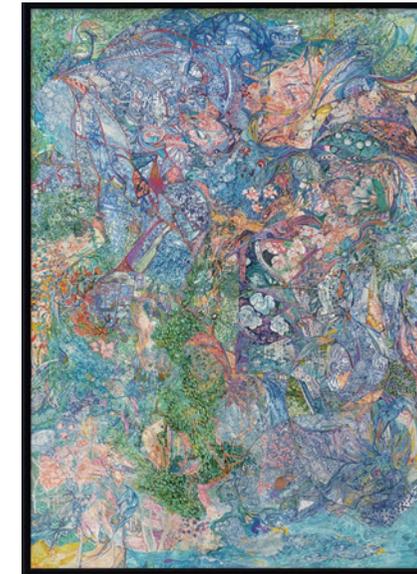


[岡山県]  
 作者名：桜崎雄輝  
 作品名：僕のパンダ  
 サイズ：縦 38cm × 横 54cm  
 素材：紙、水彩絵具、クレヨン



[香川県]  
 作者名：小倉優香  
 作品名：金魚  
 サイズ：縦 73cm × 横 103cm  
 素材：紙、水性マジック

## 中国・四国ブロックの県支援センター推薦作品



[鳥取県]  
 作者名：廣東未紗  
 作品名：ゆめのブランケット  
 サイズ：縦 105cm × 横 75cm  
 素材：紙、茶(パタフライビー)、水性インク、アルコールインク



[徳島県]  
 作者名：松永真実  
 作品名：クリスマス  
 サイズ：縦 55cm × 横 74cm(額装)  
 素材：紙、水性マジック



[愛媛県]  
 作者名：近藤昌平  
 作品名：スプーン  
 サイズ：縦 20cm × 横 15cm のペーパーバック7セット  
 素材：紙、ペン、クレパス



[広島県]  
 作者名：川崎茂  
 作品名：お姉ちゃん、お母さん、お父さん  
 サイズ：縦 38cm × 横 27cm(お姉ちゃん)  
 縦 54cm × 横 27cm(お母ちゃん)  
 縦 54cm × 横 27cm(お姉ちゃん)  
 素材：紙、水性マジック



[高知県]  
 作者名：huzimon  
 作品名：空っぽの器  
 サイズ：縦 55cm × 横 46cm × 奥行 1.5cm  
 素材：雁皮、ラッカースプレー、ボスカ

# 小笠原流の筆談鑑賞会とペチャクチャ鑑賞会について

小笠原新也 耳の間こえない鑑賞案内人

「筆談鑑賞会」とは、アート作品を目前に鑑賞しながら、感じたこと、他者に伝えたいこと、聞きたいことなどを大きな紙への筆談を通して参加者たちで鑑賞や対話を深めていく、鑑賞プログラムである。そもそも音声のみで対話しながらアート鑑賞する「対話型鑑賞」を聴覚障害者向けにアレンジしたものであるが、いざ始めてみたら聞こえない人のみならず聞こえる人にも好評だった。

その理由として、口から出てしまえばすぐに消える音声、その音声を記憶してもやがて忘却の彼方になってしまうのに対して、書かれた文字は永久に残ることが一番大きい。参加者たちは書き込まれた文やコメントなどを時差を置いて読み取ることも書き込みを加えていくこともできるので、安心感を以ってマイペースで書き込めるのである。次に、参加者たちは書き込む順番とは無関係に寄せ書きのように同時に書き込むことができる。それは音声の場合、1人が発言している間は他者は一切発言できず、たまに自分が発言したい内容と同じ発言がなされれば、早いもの勝ちなので自分は涙をのんで自分の発言をあきらめざるをえない。その点、筆談だと同じ内容の書き込みがあってもOKなので、参加者たちは自分の言いたいことをどんどん書き込めるのである。

「筆談鑑賞会」のメリットは他にもあげられるが、上記の2点の相乗効果によって参加者たちの書き込みが累積されていき、それが思考のプロセスの見える化になったり延々と連なっていくストーリーに仕上がっていったりする。時としてファシリテーターの想定を超える書き込みも散見されて、書き込みを読んでいくことの面白さ、楽しさが「筆談鑑賞会」の大きな魅力である。また、紙の上では参加者たちの障害の有無、年齢、社会的地位などは無関係で、参加者たちは全くフラットな関係性の中で対話や鑑賞を大いに楽しめるのである。

そんな「筆談鑑賞会」を始めたのが8年前、私が徳島県立近代美術館でアートイベントサポーターとして様々なプログラム活動を行っていた中で企画考案し、当館の学芸員やエデュケーター、サポーターたちの協力やアドバイスで改善に改善を重ねてきている。おかげさまでオファーを頂いて京都国立近代美術館をはじめ、各地の美術館で「筆談鑑賞会」のワークショップをやらせて頂いている。

そして、去年の秋に思いがけず土谷さんからお声がけ頂き、今回の善通寺市のアール・ブリュット展覧会「ZENキューブでつなごう展 × アートデリバリープロジェクト」のペチャクチャ鑑賞会の中で筆談鑑賞会をやらせて頂いた。ちなみに土谷さんとはその3年前に青森県の八戸市美術館のオープン初日に知り合った関係である。

ただ今回は主催者が美術館ではなく、土谷さんがコーディネーターを務める「中国四国ブロック広域センターバスレル」であり、いつもなら美術館の教育普及担当者や打合せを重ねながら筆談鑑賞会のワークショップを整えていくのだが、今回の相手は、巨大な人形、等身大の紙相撲、サッカーゲームなどを世に発表している手先も器用なアーティストさんである。だから、筆談鑑賞会をやって欲しいという、土谷さんからのメッセージには、地方自治体の予算の少なさをゆえのアール・ブリュットの展覧会や身障者の文化活動の困難さを、DIY路線で打破していきたい、と並々ならぬ熱意が込められていた。さらに耳が聞こえない私への「情報保障もDIYで」という土谷さんのご提案、つまり当日には手話通訳や要約筆記は一切無しという大胆なお話には驚いたけど、自分もふだん手話通訳者という第三者を経由

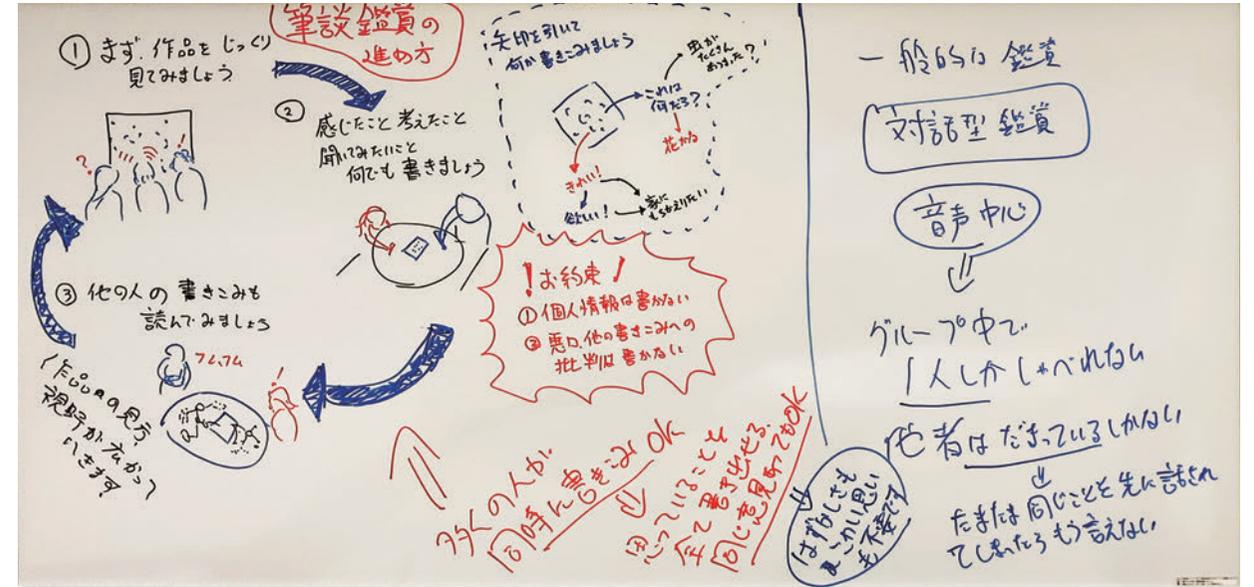
してのコミュニケーションに頼り切っている現状をいっぺん見直して、直に相手に向き合えるような情報保障もあってよいかと考えているので、「情報保障もDIYで」には同意する。そういうご提案以外にも、私のこれまでの筆談鑑賞会ワークショップを全てチェックしてくれていたようで、土谷さんは「講師とかファシリテーターではなくて鑑賞マスターとして」「ワークショップとかレクチャーではなくて自然な対話がうまければ」「鑑賞対象作品は参加者全員で決めよう」「書き込む紙を縦に立ててみよう」などと次々とアイデアを出してくる。どれもこれまでにない刺激的な試みばかりだが、自分を受け入れていざ本番へ。それにしても土谷さんの口だけでなく行動力のすごさにも驚かされる。私が東京から四国へ出発する前夜に、土谷さんは模造紙を縦に立てて、くるくる回せる支持体を短時間で作り上げてしまい、その写真をSNSで送ってくるほどの土谷さんの喜びように、自分もこれは手抜きもできないと気を引き締めたのだった。

本番の日に会社を休んで香川県の善通寺駅に降り立ってみたら、残暑の中トンボが舞う気持ちのいい風とおむすびのような山が懐かしすぎて、大いにリラックスできてしまう。会場に着いて土谷さん、バスレルの岡村センター長や平谷さん、香川県の障害者芸術文化活動支援センターKAGAWA MOVESの高橋さんと合流。会場内にしつらえた展示用壁はすべて土谷さんやスタッフさんによる手作りだ。

そのうちにペチャクチャ鑑賞会への参加者たちが集まってくる。中国四国の9県の福祉に携わる公務員や支援センターの職員が多く、ペチャクチャ鑑賞会は彼らの勉強会の1つでもある。いかにもアートとは無関係そんな人も多くいらして、果たして私の筆談鑑賞会によってくれるだろうかと不安だった。しかし、土谷さんの慣れた進行と3人のスタッフのてきぱきとしたサポートで、参加者たちのペンの動きも少しずつ加速し、模造紙もあっという間に書き込みで埋まってくる。今回は鑑賞対象の作品を参加者たちで決める方式なので、「次はこの作品にしたい」「あの絵もやりたい」の声にあわせて土谷さんやスタッフさんたちがテーブルや支持体、模造紙を持ってあちこちの作品の前に移動していく。予想では2枚で終わる見込みが、結局5枚もの模造紙に書き込まれ、それらの模造紙が一堂に集められると、参加者たちの書き込みがとても賑やかで、そこが大漁の旗みたいに躍動感に溢れる空間になっていた。

やはり、都会や美術館にはない、ゆったりとした空気が筆談鑑賞会に良い影響をもたらしていたのだろう。土谷さんも「バスレルが思い描いていた対話の場としての展覧会に近い空気が作れたのではないか。」と空気の意義に言及されていた。その空気を作り出すための工夫や方法が「筆談鑑賞会」の課題の1つになった。そういえば、「プロの第三者による手話通訳も要約筆記も無し」は、最後まで全然気にならなかった。それもやはり現場の空気のおかげだろうか。ただせつかつだから、もっと多くの参加者が筆談でも私に話しかけて欲しかった。

それから、アーティストとのコラボによる筆談鑑賞会も私には初めての体験で、あまりにも刺激や発見が多すぎて善通寺から東京に帰って半年近くになるようになっているが、いまだに咀嚼や考察が続いている。「筆談鑑賞会」はもはや鑑賞だけではなく何か新しいものを生み出すきっかけにもなっているのだとますます感じてくる。



ワークショップガイダンスでの小笠原氏の板書から



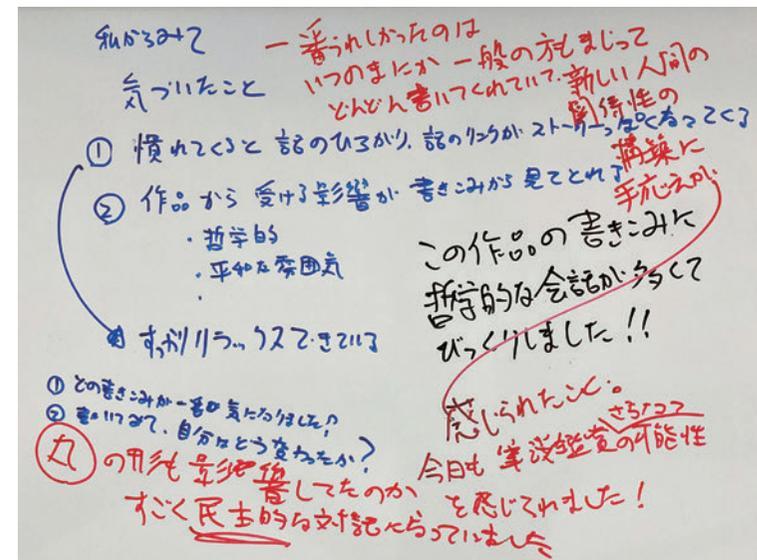
参加者それぞれが気になる絵の前で筆談鑑賞がスタート。いろいろな人が前に書いた人のテキストに回答したり、新たな書き込みを入れたりしていく



複数の人が同時に書き込めるのも魅力



30分ほどすると賑やかな書き込み(対話)に



ワークショップガイダンスでの小笠原氏の板書から



まとめをする小笠原氏

ZENキューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト

寄稿

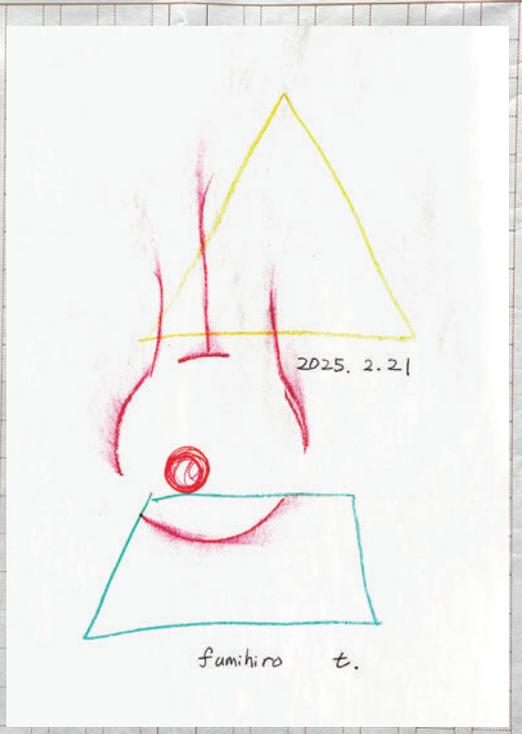
アライフ ショングラムの 一環で W R A P  
 ・認知行動療法も受けています。模造紙にカ  
 ラーマブックでテーマに付いて自由に書き  
 良いねマークが好感を記すのは別れ。こ  
 レオ・レオニーの絵本を思い出しました。こ  
 家族の姿が現れます。私もこの英雄達の仲  
 間に入りたい。色々と楽しませて貰  
 いました。  
 作家の一人 h u z i m o n とお話し  
 が出来たのが大変嬉しかったです。一筆  
 ぽの器が私には阿闍世菩薩が座す姿に観えま  
 した。令和5年12月テバット密教の高僧を善  
 通寺に迎えて「秘密集会」の灌頂を授けまし  
 た。自隠をせし、曼陀羅に投花して菩薩と結縁  
 する儀式も行い、私は阿闍世菩薩。私には予べ  
 ット密教の特徴として「空の体得」と「発誓  
 提心」が大きなものと観じます。朝・夕の  
 え座ケルヨノガ実践の中で「酒と非亭を捨  
 て！心不発願と発趣心の堅持心算もありま  
 す。今は絵葉書位しか出来ていませんが、そう

3

Z E N キューブでつなごう展 竹内文浩  
 丁度、失業中だったのが図書館でゆつくり  
 時を過して居りました。散歩がてらつらりと  
 隣の総合会館に。まだ準備中でした。ガビツク  
 リ。あの顔の目玉は何を埋め込んでいるの？  
 いわ、それは無いでしょ。立体は何も無い。  
 只色が並んで居るだけ。フーン何人か何もと  
 りだけの事か。元の位置に戻って。いや、い  
 や、ゆ、ぽり何かがある。何を見逃したの？  
 自覚は無。けれど少し老人ボケでも始ったの。  
 再度何も無し。設置して居たスタツつと少し  
 お話しができてフリーストックのチャンスと耳  
 にしました。  
 若き時、大阪の画材店に務めて居りました。  
 お客様の一人で身体の不自由を持って居る方  
 が展覧会出品前の作品を視せてくれました。  
 その圧倒的力強さに引き込まれました。技術  
 的にどうのこうのの関係なし。  
 芸術作品とは関係の無い話ですが、私は水  
 泳が好きで特位技は50mバタフライ。平成17

1

竹内文浩さんは、香川県善通寺市で開催  
 した「ZENキューブでつなごう展×アート  
 デリバリープロジェクト」設置作業の時に  
 ふらっと現れた地元の方です。仮に置いて  
 ある作品を「すごい、すごい」と呟きなが  
 ら食い入るように見ていました。展示設  
 置作業に対しても応援するようにニコニコ  
 ながら遠巻きに眺めていらした竹内さん  
 とは、いつの間にか気軽にお話するよう  
 に。展覧会が終わるとすぐにバスレールに1  
 通のお手紙が届きまして、それは出品作家  
 の huzimon さんの作品への感想でした。  
 そんな竹内さんに「ZENキューブでつなご  
 う展」についての寄稿を依頼させていただきました。  
 (文：土谷)



この原稿に添えられてきたドローイング

少しまとまった作品にも序々に挑戦して行き  
 たいと思います。良い刺激を頂きました。ま  
 た皆様にお会いします。

4

10月30日(水)14時、パチャクチャ鑑賞会、退  
 院後も週2回高松・牟礼の三光病院に通院。  
 話が大回りをし、戻りました。  
 両手両足全て骨折を経験し、車椅子も松葉杖  
 も2度利用しました。今は日常生活には支障  
 のない回復に感謝して居ります。リハビリは  
 かなりガンボリしました。大酒飲が全戸の  
 下戸に成り、今は断酒生活。わ、と自分と向き合  
 う事が出来る様に。ある意味で依存症、てじ  
 の不自由さを持つて居る様に思っています。  
 命泳いでいる者とは全く別。頭が下り、ぼろ  
 乙。令和2年6月、8月中旬迄前立腺癌の治  
 療で兵庫県立粒子線医療センターに入院。隣  
 は県立西播磨総合リハビリテーションセンター  
 1。こういう所でガンバトルのや。私自身  
 年倉敷で出張生活を送っていて見島の水泳作  
 間と共に岡山国体のスタツつ参加に護衛して  
 競泳競技役員を務めました。国体後の障害者  
 大会も役員で参加しました。その頃は大酒飲  
 の真最中でおいし、お酒を飲むために一所懸  
 命泳いでいる者とは全く別。頭が下り、ぼろ  
 乙。令和2年6月、8月中旬迄前立腺癌の治  
 療で兵庫県立粒子線医療センターに入院。隣  
 は県立西播磨総合リハビリテーションセンター  
 1。こういう所でガンバトルのや。私自身

2

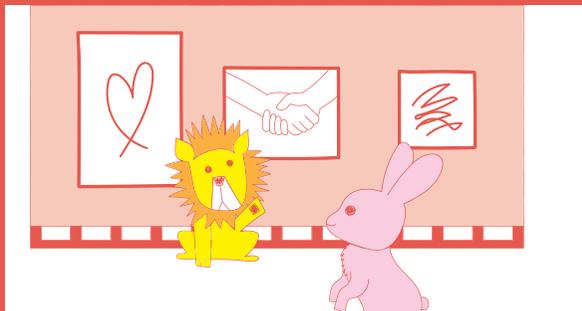
ZEN キューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト

# ふりかえり座談会

2025年2月3日(月) 午前10:00～12:00 香川県庁

[参加者]

- 岡毅 香川県健康福祉部障害福祉課 地域生活支援グループ 課長補佐
- 久保卓也 香川県健康福祉部障害福祉課 地域生活支援グループ 主任
- 高橋修 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES 代表
- 岡村忠弘 バスレル センター長
- 土谷享 バスレル アートデリバリープロジェクト ディレクター



普通寺希望の家で活動するアーティストたちの作品展示



香川県障害者芸術祭 2022 ～キラリ☆と光る芸術祭～出品作品から選出された作品展示

**岡村** 今回のZENキューブでつなごう展では大変お世話になりました。まずは主催であったKAGAWA MOVESの高橋さん、率直な感想などいかがでしたか？

**高橋** あの空間が素敵なものに変わるのには企画の力だなと思いました。展示の仕方も勉強になり、スタッフも喜んでました。新しい視点で他の支援センターとの意見交換させてもらったのは、今までにない経験で今後にも活かしたいと思いました。

**岡村** 香川県の久保さん、いかがでしたか？

**久保** 支援センター事業として、はじめての香川県以外のアーティストさんの作品の展示でした。これは中四国の各センターや皆さんの力を借りることで県外の作品を見る機会がもてたし、普段ではなかなか県を越えられないのでよかったです。香川県だけでやってると変化の乏しい展示になってしまいがちだが、今回の試みでは自分たちにはない視点や発想を見ることができました。

**岡** パネルを1から作ることもないですし、今まで取り組んだことのない新しい展示方法でよかったです。香川県単体だと労力的に難しいと思っていて、皆さんの協力なしには実現できませんでした。今後、香川県の少ないマンパワーで実現できる様に省力化をしていくことも大切だと思ってます。

**岡村** 今回の事業によって、香川県での障害を持つ方に変化をもたらした部分はありましたか？アートデリバリープロジェクトの目標でもあった部分ですが、展示技術のノウハウを伝えていくことも大切だと思いますが、障害があるが故になかなかアーティスト同士も出会う機会が少ないとも感じています。

**土谷** 県を跨いで、展覧会を見にくる出品作家さんも多く、偶然にも作家同



展示会場正面、手前作品は飛田司郎「泣き笑い怒る自分」

士が会場であ会うこともありました。また、会場の近くにお住まいの障害当事者の方も、準備中から足繁く訪れて、会期終了後にバスレルへ感想のお手紙も郵便で送ってくれました。

**高橋** 私は琴平の作家の方と展覧会場で待ち合わせする機会がありました。展示があるから見に来ませんか、ということで私からお誘いし、会場で待ち合わせして、おはなしのきっかけにつかわれてもらいました。この方は普通寺希望の家が相談支援の担当ということでつないでくれたんですが、この様なイベントがあることで、声かけて話をするきっかけとして使いやすかったです。

**岡村** 発表の機会創出を超えたエピソードが大小色々あると思っっています。私は展覧会をただするだけで良いというものではないと思うのですが、香川県庁としてはいかがでしょうか。

**久保** 正直なところ、私たちのスタンスとしては発表の機会の創出というところにまずは重点を置いています。この発表の機会創出には、出品するアーティストの側と、作品を見る側の、2種類の重要な立ち位置があると思っています。私はこの課の担当になるまで、正直、障害がある方々の作品を見る機会がありませんでした。だからこそ、県内の幅広い場所なるべく多くの展示の機会が必要かなという観点で事業を行っています。今年度は、そのうちのひとつとして、普通寺の展覧会もおこないました。意識しないと高松市近郊に偏ってしまいがちな発表の機会を、県内を満遍なく行っていきたい。なぜなら高松市近郊に偏ると、県の端の人は見に来れない人も多くいるからです。だからこそ、県内満遍なくというふうと思っています。その前提の上で、なかなか現場での小さなエピソードは、立場的に拾っていませんが、県の担当者としてはそういう考えです。

**岡村** なるほど、すぐわかりやすかったです。では、障害福祉課に来なければ、障害のある方の作品を知る機会がなかったとおっしゃってましたが、そして今は、その回数を増やしていかなければいけないと感じているわけですが、その先の想いとは？

**久保** 作品にはじめて触れたときに、私の感覚では、率直にすごいと思ったんです。私には絶対に真似すらできない。こういったすごい作品を施設や学校の中だけで飾るのではなく、沢山の人の目にとまるところに展示し、この様な作品があるのだと、まずは知ってもらうことに意味があると思っています。しかしまだ、残念ながら知ってもらうという段階を抜けてないとも思っています。

**岡** 評価されることで当事者の方々が社会生活の自信につながるものにな

ると良いですね。障がい者アートを使ったビジネスなど、可能性もまだまだあると思います。しかしまだ残念ながら、認知を向上させていく必要がある。そしていずれは、障害の有無にかかわらず展示してほしい。“障がい者芸術”ではなく、“芸術”として、美術展に展示されるのが望ましいなと思っています。

**岡村** 本当にそうですね。今お話いただいた課題認識と現状について、行政の方と支援センターがどの様に共同して取り組んでいくかという部分も、この事業がより良くなっていくための鍵を握っていると思っています。現場だけ、支援センターだけで頑張っても難しい部分も多いですし、また一方で、行政からトップダウンでこれやってくださいというだけでも難しい。また、展覧会の回数を増やせばよいのか、というだけで達成できるものでもないと思うんです。支援センターと県とが一緒に共同して作り上げていくプロセスそのものというのは大切だと思いませんか？

**高橋** ZENキューブでつなごう展については、来年度も自分たちでできる範囲でやりたいと思っています。今年度やったことで良いイメージを自分たちは持っているのでも、予算がない中でも自分たちでできる範囲でつくっていききたいです。共同という部分では、県の方々や、普通寺希望の家の野辺さん達と一緒に事業を作っていけたらと思っている。将来的な視点としては、発表の場を県内いろいろなところで作って行きたいんです。その場として、公共施設が良いなど。公共施設なら、多くの人に開かれていますので市民の人が来やすいかと。そこで複数の行政施設の指定管理を担っている企業である穴吹グループさんに話を持っていったら、快く応じてくれました。今年度は詫間町(元三豊市)の市民会館が改装中でしたが、来年度はそちらにも展示したいと考えています。

**久保** 行政と支援センターの役割というのが明確にあります。普通寺の事業では支援センターイニシアティブを進めてくれました。一方で、県がイニシアティブをとって進めないと出来ないこともあります。例えば今年度実現した高松空港での展覧会は、香川県の障害福祉課から呼びかけたことで実現できました。こうした役割分担は大切だとも思っています。事業がマンネリにならない様に気をつけていることとしては、展覧会や音楽鑑賞会など、支援センター事業に県の担当者として必ず顔を出すことで、現場の雰囲気を感じ取ることを大切にしています。

**岡** 香川県は幸にして瀬戸芸の土壌もありアートに対する文化認識は強いと思います。次年度は障がい者芸術祭2025も実施します。毎年毎年大きなことをやっていくのは予算的にも難しい面がありますが、こうした機会をとらえながら、認知を一つずつ高めていく努力、そしてそのバランスかなと思っています。

**岡村** 予算という話が出ましたが、県の事業予算を確保していくために何か必要だと考えられることはありますか？

**久保** やはり県としては内部で成果を常に問われるわけです。特に数字の部分を期待されるが、この事業は実は数字では表せないと思っているのですが、その指標の設定は大変難しいです。

**岡村** 久保さん指摘の様に、私も数字だけでの評価で表すのではなく、例えば障害当事者の方に何か変化があったかという様な事例も大切だと思っています。特に今回のアートデリバリープロジェクトを通して確信したのは、出品者同士の交流の場の大切さでした。その機会の作り方や必要な支援の仕方を来年度以降の事業プランにも反映していきたいと考えています。また、バスレルとしても一回きりで終わりにならない様に焼き付けた事業へのフォローアップは大切だと思っています。

**高橋** それでしたら、ZENキューブの館長さんからは、来年度も同じ時期でぜひ開催をしてくださいと声をかけられてます。

**土谷** 今回みんなで作った展示用の仮設壁は保管してますので、ぜひ使ってくださいね！

**岡村** そういえばKAGAWA MOVESは音楽療法グループWALKSの活動を30年ほど行っていますよね。是非、中四国でも音楽の活動も盛り上げてほしいです。

**高橋** サヌキロックンロールサーカスなどは、WALKSの企画として毎年継続して実施していますが、一方で音楽については、支援センターとして表立って行うことは現在は封印しているんです。美術の自力をあげていて、それから支援センターとしてロックを少しずつ出していこうとは思っています。とはいいつつ、他県での活動でもWALKSの音楽活動が活かせることがありましたら、是非裏方でもデリバリーしていく気持ちはあります。いろいろなところで経験を積んでいきたいとも思っています。

**土谷** 全国連絡会議の発表でも、エレキギター片手にジャラ〜んって登壇してほしいですね！

**久保** 会議の参加者の方々にはそれはちょっと……でなっちゃいませんか？

**土谷** 大丈夫でしょう！文化芸術活動普及支援事業なんですから。

## 第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト



令和6年度時点で障害者芸術文化活動支援センターがまだ設置されいなかった山口県でのアートデリバリープロジェクトを山口県および山口県障害者社会参加推進センター事務局に企画提案し、第30回山口県障害者芸術文化祭との同時開催という形で実施しました。



なんでそなんプロジェクト 村木実乃里さんの作品「ガムテープのタネ」



アートデリバリープロジェクト

### 展覧会情報

#### 第30回山口県障害者芸術文化祭 応募作品展示会

日時：11月19日(火)～11月28日(木) 10:00～15:00 ※11月25日(月)は休み  
 会場：山口県政資料館(山口市滝町1-1)  
 作品展示数：合計283点(内訳：絵画122点、書道46点、写真29点、手芸47点、文芸11点、俳句短歌28点)  
 事務局：山口県障害者芸術文化祭実行委員会(山口県障害者社会参加推進センター内)

[同時開催]  
 中国・四国巡回型アートプロジェクト アートデリバリープロジェクト 作品展示  
 展示作品：中国・四国各県支援センター推薦作品 + 中国・四国アール・ブリュットサポートセンターバスレルの活動紹介

[ベチャクチャ鑑賞会]  
 講師：会田大也(YCAMアーティスティックディレクター)  
 日時：11月19日(火) 13:30～15:30  
 会場：展示会場にて

#### 第30回山口県障害者芸術文化祭 第30回記念イベント

日時：12月1日(日) 10:00～15:00  
 会場：ゆめタウン山口(山口市大内千坊6-9-1)  
 内容1：第30回文化祭最優秀作品展  
 内容2：中国・四国巡回型アートプロジェクト アートデリバリープロジェクト作品展(4作品)  
 内容3：文化芸術ワークショップ

第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト

## 「開かれた作品」としてのギャラリーツアー体験

会田大也 YCAMアーティストック・ディレクター

普段、私は山口情報芸術センター[YCAM]で学芸普及課長として勤めている。YCAMではアーティストとともに新しい作品を生み出している。私はこの施設でミュージアムエディターとしてキャリアをスタートさせた。ワークショップやギャラリーツアーの仕事をしてきた。そんな私が、今回「第30回山口県障害者芸術文化祭」において、ギャラリーツアーのファシリテーターを務めることになった。YCAMでは主にメディアアートを扱い、プロフェッショナルな作家の作品を鑑賞者とともに探る場を設ける。しかし、今回のギャラリーツアーは、YCAMとは異なる環境で行われ、対象となる作品も多様な背景を持つ表現者によるものだった。そのため、一般的なギャラリーツアーとは異なる手法を模索する必要があった。

今回のツアーでは、作品の解説を行うのではなく、参加者＝鑑賞者自身が気になった作品について考え、その理由を共有する形を取った。具体的には、以下の手順で実施した。

1. 6～8名ほどの参加者にA4用紙と鉛筆を渡し、5～10分ほど会場を見て回ってもらう。
2. 気になった作品で感じた言葉を直感的に紙にメモしてもらう。一つの用紙には一つの言葉もしくは文章のみを記入するルールを設けた。
3. その後、メモを床に広げ、全員でどの言葉もしくは文章が印象的だったかを指さす。
4. そして、一言ずつ「なぜその言葉もしくは文章が気になったのか」を語ってもらう。
5. 最後に多くの人が気になった言葉もしくは文章を書く元になった作品をみなで鑑賞し、感想を述べ合った。

このアプローチをとったのは、作者の意図を解説することよりも、鑑賞者自身の視点を大切にしたいから。作品の背景や技法を説明する従来の方法ではなく、各自が自由に感じたことを共有することで、一つの作品が持つ多様な解釈が浮かび上がる場をつくることを意図した。

ウンベルト・エーコの『開かれた作品』（1962, 1967改訂）には、「ア

ート作品は受け手の解釈によって意味が広がる」といった考え方が示されている。この考え方を説明する対照的な例として、エーコは「道路標識」を挙げている。道路標識は、解釈の余地があると混乱を招くため、一意に理解されるべきものである。しかし、アートはその対極にあり、作品をどう解釈するかは受け手に委ねられるべきだというのがエーコの主張だ。

しかし、一般的なアート鑑賞の場では、いまだに「作家の意図を当てること」が重要視されがちである。これは、コミュニケーションのモデルが「発信者→受信者」の関係であるという前提が強く根付いているからかもしれない。しかし、実際にはコミュニケーションのすべてがこのモデルに従うわけではない。「明日暇ですか?」という単純な問いですら、質問者と回答者の関係性によって異なる意味を持ち得る。単なる予定の確認、デートの誘い、今後依頼するかも知れない仕事のための予備的な質問にも成り得る。アートも同様であり、作家の意図があったとしても、鑑賞者が必ずしもそれを受け取るとは限らず、異なる解釈から新たな意味が生まれることがある。

今回のギャラリーツアーでは、この「開かれた解釈」を積極的に促した。参加者は、自分がなぜその作品に惹かれたのかを言語化し、それを他の人と共有することで、互いの視点に影響を受けながら新たな解釈を生み出していった。例えば、ある作品について、自分なりの明確な解釈を述べる人がいた一方で、「まったくそんな解釈、想像すらできなかった」といった感想が交錯するような状況だ。同じ作品を見ているのに、全く異なる印象を持つ人がいることを実感する場面だった。

また、エーコは『開かれた作品』の中で、1940年代に発表されたシャノンの情報理論を参照しながら「ノイズ」の概念についても論じている。シャノンのモデルでは、ノイズは情報伝達の妨害要因とされるが、エーコは芸術においてはノイズが解釈の幅を広げる役割を果たし得ると指摘する。つまり、意味が固定されていない芸術作品には、偶発的なノイズが含まれ、鑑賞者ごとに異なる解釈が生まれる余地があるのだ。この視点から考えると、今回のギャラリーツアーも、作品の意味を一義的に決めるのではなく、解釈の多様性を積極的に引き出す場として機能していたと言える。



みんなが書いたメモを床に広げ、全員で指差しをしている様子



(上) ある参加者が選んだ新井捺美さんの作品「しりとり」  
(下) 参加者のメモを手がかりに、作品「しりとり」を前にして参加者から様々な解釈が紡ぎ出されている様子

メディアアートとの関係についても、このギャラリーツアーを通じて改めて考えさせられた。メディアアートは、しばしば鑑賞者の振る舞いによって様相が変化する。インタラクションが明確に存在し、作品が観客の行動に応じてリアルタイムに変化することが多い。しかし、エーコの考えを踏まえると、決して動かない絵画のような作品であっても、鑑賞者の解釈次第で意味が変化するという点では、メディアアートと共通する側面を持つと言える。私自身、メディアアートを学んだ後にアートエデュケーションの仕事に携わるようになったため、メディアアートの「関与のあり方」に関心を持ってきた。そして、その延長線上でエーコの「開かれた作品」の概念に出会い、アート全般において解釈の多様性が重要であることを強く意識するようになった。

このギャラリーツアーの経験を通じて、私は「鑑賞者がどのように作品と関わるか」を考えることの重要性を改めて実感した。普段YCAMで扱う作品とは異なり、今回の展示作品には現代美術の文脈における明確な位置づけとは乖離があるが、むしろより純粋な形で表現がなされていると言える。そのため、正解を提示するのではなく、参加者が自身の経験や感覚を通じて作品と対話できる場をつくることを意識した。

エーコが示したように、アートは受け手によって常に意味が更新されるものであり、その解釈のプロセス自体が鑑賞の本質である。このギャラリーツアーは、まさにそのプロセスを実践する場であったように思う。これからも、アートを「説明されるもの」ではなく、「対話を通じて新たな解釈を生み出すもの」として提示することを意識しながら、鑑賞者との関わり方を模索していきたい。



会田氏が持参したウンベルト・エーコの『開かれた作品』の書籍



メモを手がかりにギャラリーツアーをする様子

## 第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト

## ふりかえり座談会

2025年2月28日(金) 午前10:00～11:00 オンライン

【参加者】

武居ひとみ 一般社団法人山口県身体障害者団体連合会(山口県障害者社会参加推進センター) 事務局長

小村大介 山口県健康福祉部障害者支援課 社会参加推進班 主任

岡村忠弘 バスレル センター長

平谷尚大 バスレル 芸術文化活動支援コーディネーター

北添紫光 バスレル 芸術文化活動支援コーディネーター

土谷享 バスレル アートデリバリープロジェクト ディレクター

**土谷** 11月に山口県障害者芸術文化祭にアートデリバリープロジェクトをデリバリーさせていただきました。搬入展示作業では、武居さん達のスタッフを始め、行政の担当課のみなさんが和気藟々と本当に楽しそうに準備している姿にテンションが上がりました。展覧会が始まると、例えるなら武居さんさんは銭湯の番台さんのようにテキパキと明るく切り盛りしていたことが印象的でした。長年、中心的に山口県障害者芸術文化祭を準備をされてきている武居さん、いかがでしたか？

**武居** 展示会場で利用している山口県政資料館はハード面が大変心配でした。今回はアートデリバリープロジェクトも加わり、どこに展示をしようかと。展示用のパネルも不足しますし、文化財なので直接的に壁に取り付けられないんです。それをバスレルの画期的なアイデアや感覚で、あっという間に展示してくれました。長年の感覚だと「作品には触っちゃいけない」というのがありました。バスレルがデリバリーしてくれて廊下に展示されていた「なんでそなんプロジェクト」の作品で「ガムテープの種」は誰でも触って良い作品でした。それが、会場に来る人も触っても良い作品もあるという新しい感覚を知るよききっかけになりました。また、広島県の作家さん川崎茂さんがご家族と、障害者芸術文化祭の巡回先の「ゆめタウン山口」にご来場してくれました。展示場所の関係で、アートデリバリープロジェクトからは4作品に絞って展示させていただきましたが、川崎さんの作品は3作品の中から1作品のみの巡回になり、少し寂しい思いをさせてしまったかなと今でも思っています。ただ、今回のチャレンジをきっかけに県政資料館だけの展示以上に多くの方の目に触れる機会は増やしていきたいと思いました。全作品が巡回できると良いのですが、今後の課題ですね。そこで気が付いたことは、出品作家さんにとっても展覧会に出品している自分の作品を観に行くには、自分から会場へ行かなければならないということでした。



触っても良い作品として展示された、なんでそなんプロジェクト村木実乃里さんの作品「ガムテープのタネ」

**土谷** ありがとうございます。まずは、ガムテープの種が、新しい感覚をもたらしてくれたとのことで、今回展示ができて良かったなと思いました。そして、「ゆめタウン山口」での展示に広島県の川崎さんが県を越えて来場くださったお話、ありがとうございます。実は、普通寺も含めて、アートデリバリープロジェクトに作品を貸してくれた作家さんの8名のうち6名が、展覧会場に来てくれていました。会場で偶然に作家さん同士がお会いすることもありましたし、久しぶりの家族旅行として来場くださった方もいました。ご本人を含めて周囲の人たちが観にきたいという気持ちが心から発動することがとても重要だと思いました。また、展覧会出品後にご家族の心情が柔らかくポジティブに変わってきているというようなお話もある施設のスタッフから伺っています。そこでバスレルでは、これまで合同の展覧会という作品の移動ばかり気にかけていましたが、次年度は作家さんの移動に対するの支援にも取り組もうと考えています。

例えば、次年度のアートデリバリープロジェクトではアーティストミーティングを開催してみようと思っています。それを実現するためには様々な課題や障壁があると思いますが、広域センターとしては大切な中間支援ではないかと思います。武居さん、作家さんが県を越えて集まるということ考えた時に、色々な困難が想像に難くないと思いますが、どう思いますか？

**武居** そうですね、そういう新しい大きなことをしようとする時には現実と理想とかけ離れていることもあります。そこに向かう気持ちを醸成するという意味では、時間がかかることもあるかもしれないですが、とても意味ある取り組みだと思います。

それと、会期中は早い段階でバスレルさんのこれまでの活動報告書がすごい勢いで捌けていきました。来場者の方々がすごい勢いで持っていったんです。この行動の背景には、知らない世界に触れたい、知りたいということがあるのだと思います。なので、新しいことや知らなかったことをどんどん知る術、そういった情報提供の方法の構築がもっと必要なのかもしれないですね。

**岡村** まず私からは、バスレルが山口県と今回実施を呼びかけた背景には、山口県には支援センターが無かったからなんです。とはいえ、一緒に事業を行わせていただくと、行政、事業者、作家さんが三位一体で作り上げている本当に素晴らしい展覧会だなと感じました。この展覧会だけを見れば、支援センターがなくても、支援センター以上の取り組みをされていると感じました。逆に、支援センターの設置の意味とは、と改めて考える機会にもなりました。

**平谷** 私は設営だけの関わりでしたが、他県の準備では主催者と行政がひとめでわかることがあります。たとえば、行政の担当者の方は”お手伝い”



ゆめタウン山口での展示風景



第30回山口県障害者芸術文化祭展示設営作業は常に笑顔で溢れていた



第30回山口県障害者芸術文化祭チラシ

にきているだけで、そういう空気が出てしまっていたり、ですね。しかし山口県の準備では、そういった垣根が分からなくて、全員で丸となって取り組んでいて素晴らしいチームだなと思いました。

例えば、暖簾の形の作品があったと思います。その作品の展示方法を、みなさんがあーだこーだ言いながら試していて、最終的に蛍光灯の什器に吊るして展示していましたね。これは、その現場でみんなて試行錯誤して出てきたブレイクスルーだったと思います。

**武居** そう言ってくださりありがとうございます。本当に作品を設置するところが少なく悩んでいたところに、今回はバスレルさんのような前向きな外部の人たちが参加することで新しい展示方法とか新たな発想が現場で生まれたんだとおもいます。同じ空間でバスレルさん達が自由な発想の展示作業をしていて、一気に視野が広がりました。先入観から解き放たれたというか。

**小村** 実は山口県障害者芸術文化祭の第30回の節目の企画について、昨年度から何をしようか悩んでいたところでした。そこで、バスレルさんからの提案があり、是非連携したいと思いました。10月には普通寺で開催された「ZENキューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト」に行くと、これはすごいと感じて、山口ではどうしようか、どのような展示になるのかと、ワクワクしました。

山口でのアートデリバリー巡回展では、展示用パネルも高知から車で運んでいただき感謝しています。芸術文化祭は常にパネル不足なので、周囲の施設や学校からもお借りしているんですね。

チームワークについては、担当者としてはいつもこの時期になるとスイッチが入りますが、同じ班のメンバーが、本当に協力的なんです。班のメンバーはそれぞれ担当業務が異なるのですが、他の事業でも、一年を通じて班の誰かが武居さんとは関わっているんです。武居さんの団体とは一年を通じて課との強い信頼関係ができています。

とはいえ、芸術文化祭は毎年手作り。山口県には県の支援センターが未設置なわけですが、10月に普通寺に行って、ブロック会議・研修会にも参加させてもらい、他県さんの取り組みや意見を聞いて、県の支援センター設置に向けてなるほど、そのように展開していったのかと勉強になりました。そしてやるからには予算も重要なんだとよくなりました。バスレルさんは、山口県にずっと働きかけてくれていましたよね。2年前でしたかね、厚労省の森さんと来てくれた時に初めてお会いしましたが、やるなら今年だと芸術文化祭30周年のその勢いもあって、この課題には全力で向き合えました。

**北添** 県の障害者芸術文化祭には手作りで取り組まれてきたとおっしゃっ

てましたが、たとえば、歴史ある建築の中で展示する場合の良さと難しさというのが混在しますよね。私は展示作業の時に参加させてもらいましたが、モニターを使う作品があったので電源が必要で、その取り回しに苦慮していました。文化財だからあまり迂闊にはさわられません。些細なことでもダメと言われることが経験上多いんですが、そこで、小村さん達に相談したら、北添さんの案でそのままやってみようかと返事をくれて、本当に小さいことなんですけど、この些細なところでも大きなやる気を感じることができました。

**岡村** 小村さんがずっと居るわけではないというのが県の仕組みだと思うのですが、担当が変わられてもこの想いをどう受け継ぐのか、是非一緒に考えていってほしいです。これまでにこのモチベーションのために大切にしてきたことって何かありますか？

**小村** はい、武居さんとのコミュニケーション、関係者との会話、あとは現場を見るということです。

**平谷** 山口県障害者芸術文化祭30周年に向けた気持ちはどうやって温めてきたんですか？

**武居** 母親の目線かもしれませんが、スーパーにお買い物に行くときの子供や愛好家の絵画展とかやっていることがありますよね。我が子の絵がなくてもつい見入ることがあります。たとえば、そこに障害のある方々の作品展示ができていいなって、そういう日常的なところからアイデアがふっと湧いてきました。私は県の事情とかが分かってないのですが、ひとまずこうして湧いてきたアイデアの中で、実行できたら良いかもなあと案を県の担当者に率直に投げてみるんです。そして多くの場合、受け入れてもらいます。私のセンターの事業としては文化祭は全事業の一部なんですけど、日常的に出てるアイデアも、県のこれまでの担当者の方々と積み重ねてきた経験も含めていいとこ取りしながら、この文化祭を継続させていきたいと思っています。今回の30周年記念事業の一つとして実施した「ゆめタウン山口」での展示もその一つでした。

**土谷** 日常生活、県、武居さん、そして武居さんの団体が行っている他ジャンルを含むこと、障害当事者、支援者が緩やかに、しかし力強くつながっている状態が、今回の第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクトで感じたポジティブな明るさの源泉だったんだなあと良くなりました。この山口県のポジティブな感覚を広域センターとしては中国四国ブロック全体に良い影響として広めていきたいと思っています。年度末の大変忙しい時期にありがとうございました。

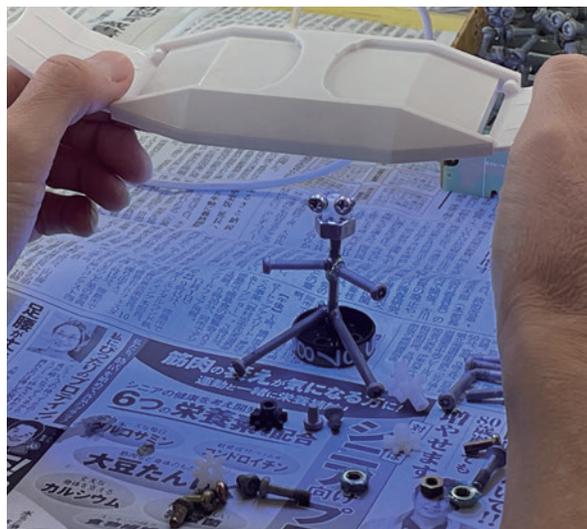
## みんなであそぼうの日+アートデリバリープロジェクト



徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター協力のもと、令和7年度にアートセンターがオープンする予定の徳島市にある「ふらっと KOKUFU」にて小さなアートデリバリープロジェクトを行いました。



バスレルメタパス作品の体験



ネジ人間工作ワークショップ

### イベント情報

#### みんなであそぼうの日+アートデリバリープロジェクト

日時：12月7日(土)、8日(日) 10:00～15:00  
 会場：ふらっと KOKUFU(徳島県徳島市国府町中369番の1)  
 内容1: バスレルメタパスプロジェクトの体験ワークショップ  
 内容2: ブルースカイズタジアムの展示  
 内容3: ネジ人間工作ワークショップ

## ふりかえり座談会

2025年2月17日(月) 午前15:00～16:30 オンライン

[参加者]

松岡陽子 社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 ワーク&デイ ラクリエ 課長

西木正 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター 総括専門企画員

岡村忠弘 バスレル センター長

土谷享 バスレル アートコーディネーター

**土谷** 12月7、8日に開催した「みんなであそぼうの日+アートデリバリープロジェクト」の感想、そして令和7年秋にふらっと KOKUFUにオープンする予定のアートセンター、そして開館イベントで行うアートデリバリープロジェクトの企画についてお話ししましょう。よろしくおねがいます。まず、「みんなであそぼうの日+アートデリバリープロジェクト」の当日は、レーシングカーが庭に来ていたり、2階ではダンスのワークショップをやっていたり、すごく多様な人が集まるあったかい雰囲気のイベントでしたね。すごく感化されて高知に帰った記憶があります。この日はバスレルからは、『バスレルメタパスプロジェクト』\*1と『ネジ人間ワークショップ』\*2、『ブルースカイズタジアム』\*1の立体作品の3つのコンテンツをアートデリバリーしました。松岡さんや他の支援員さんも利用者さんを連れてきてくれてワークショップなどに手をさしのべてましたが、利用者さんの様子など、いかがでしたか？

**松岡** アートデリバリープロジェクトでは、いつものラクリエでの活動にバスレルが加わったことでの相乗効果が面白く、たくさんの方がこられてました。アートデリバリープロジェクトで過ごしたら他の場所に行ったり、そしてまた、すぐ戻って来たり、会場内のそういう行き来などのコミュニケーションも含めて面白かったです。

**西木** バスレルメタパスプロジェクトですが、アバターで交流したりしているのはテレビなどの情報としては知っていましたが、実際に体験してみても利用者さんも楽しんでのが伝わってきました。ネジ人間ワークショップでは、参加者のみんなにとって使ったことのない素材で、レジンを使った工作は新鮮でした。この技法が短時間でのワークショップに適していて感心しました。新しいやり方も見えたり個人的にも勉強になりました。なによりも利用者さんが、その手法にハードルがなく、すぐに馴染んで作業に没頭してましたね。

**岡村** 率直に多種多様な人が入り乱れる空間で、私自身とても好きな空間でした。会場にはオートバイレーサーがいたり、ギャルっぽい人もいたり、普段、福祉に関わらない様な人たちもわいわい来場していて素敵な空間でした。個人的には、ネジ人間のワークショップがようつやく日の目を浴びて嬉しかったのと、障害当事者同士が会おうとか、作品を見せ合うというのも大切ななと感じました。そういう視点でいうと、機会があればネジ人間工作に取り組んでいる青い空の利用者さんが講師で来て欲しいというイメージも湧いてきました。

**土谷** 次年度のプログラムでは当事者同士で教え合うことができても良いね。

**岡村** そうですね。それに関連してもう一つ、次年度のアートデリバリープロジェクトへの強い想いがあります。それは、大きな不安はありますが、令



バスレルメタパス作品の体験

和6年度のアートデリバリープロジェクトに出品していた多くの作家さんが、県を越えて遠方からご家族や支援者の方々とも来場されていて、すごくいいなと感じたことから考えたものです。当事者が同じ場にいたり語り合う場、または語り合わなくてもよくてその場に居れる場、交流する場、県を跨いで出会う、そういう企画構想をバスレルで次年度の計画で立てていまして、当事者が県を跨いで移動してくるというのは、支援者としては大変だとは想像に固く無いのですが、とても大切なことだと思っています。作家さん同士が集まってお話ができるのかとか、何も話さない人がいたら私はソワソワしてしまうかもしれませんが、それは、私がソワソワしているだけであって、ご本人たちは心地の良い空間だったりするかもしれない。場が持つのだろうかとか、私たちにも不安があるのですが、アートデリバリープロジェクトを通じて、私たちの障壁もひとつ越えられたらいいと思っています。それと、ふらっと KOKUFUでのワークショップで気が付いたことがあって、静かに工作していたから寂しいおもいをされているかもしれないと声をかけたら、ご本人はとっても集中されていたりとか、途中で失敗しているのを見つけたので声をかけたら、実はご本人は壊れちゃったのを喜んでいたりとか、私の想いとは違うことも多いなど。工作ワークショップとかを通じて「気持ちを作る場」みたいなことを私たちが手助けできるのではと考えています。これをアートデリバリープロジェクトとして、いろいろなお届けできるのではないだろうかとも考えています。

**土谷** 来年度10月あたりにオープンする予定のアートセンターについて、お話をうかがえますか？現在のふらっと KOKUFUの存在そのものが、文字通り地域とのふらっとな施設としてすごく印象的なのですが、アートセンターはどの様な存在を目指しているのでしょうか？

**松岡** ふらっと KOKUFUの正面にある古民家を改装してまして、ラクリエ別館としてアートセンターを開業予定です。芸文センターや地域共生事業と一緒にアートの場所ができるといいなあと期待も大きいですし、ゆくゆくは作品の展示販売やカフェ運営とかにも取り組んで、地域の方が気軽に過ごす場所になってほしいです。

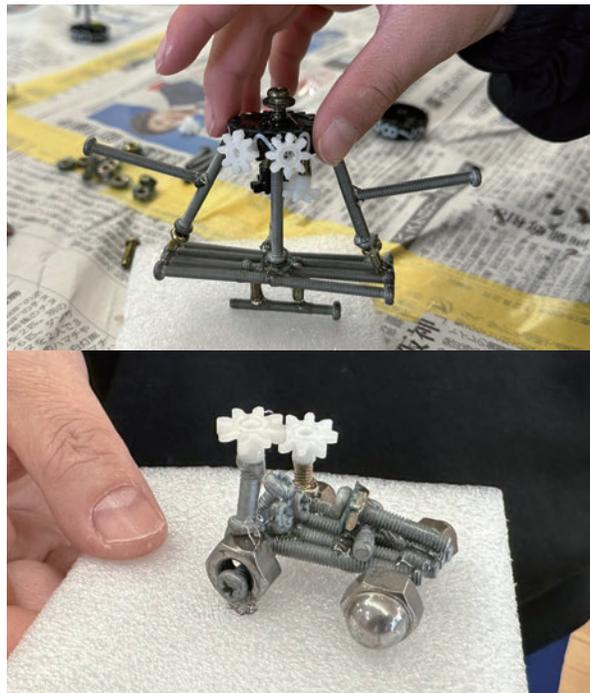
**西木** この地区には支援学校もありますが、卒業するとアートの活動場数が少ないです。支援学校では手取り足取り指導がありますが、卒業後は途絶えてしまいます。また、創作活動に理解がない家庭も多いです。そういう方が時々ふらっとよって創作できる場所になって欲しいです。たとえば、支援学校の帰り道に創作できる。ちょっとだけ寄って試しにやってみる、とか、気軽に。楽な気持ちで楽しんでもらえる場所がいいですね。こうしなければあしななければと大上段には構えない。地域の一つの溜まり場みたいな、そんな感じで考えています。

**岡村** ふらっと来れる場所、いつ来ても、入っても咎められない場所というのが年々減ってきている様に思います。入っちゃダメ、行っちゃダメと言われない場所が地域にあるとほんとにいいですね。

**土谷** バスレルとしては、障害の有無に関わらず地域の方々の日常と地続きになる様なコンテンツを企画構想することに、松岡さん達と取り組めると素敵だなあと考えています。例えば、各支援センターのおもしろコンテンツをスタートの時に集められると良いかもしれないですね。県を越えた交流にもなりますし。

12月にもネジ人間ワークショップで取り組んだ青い空のマテリアルショップパレットの素材を共有することは可能ですし、広島県障害者アートサポートセンターが取り組んでいるんですが、不要になった画材の寄付を募るプロジェクトとか、高知県の薫工ミュージアムが行っている薫工アンデパンダン展とか、地域との交流や作家同士の交流も深めるコンテンツの実践例はたくさんありますね。

**西木** 地域で呼びかければ画材など提供していただけるものもあるかもしれないですね。つながりも生まれます。この様な面白いと感じたことには



ネジ人間ワークショップ

どんどん挑戦していくことが大切だと思うんですよ。私が最近思うのは、起承転結を狙うのではなく、石を投げて、その投げた後の波紋を見守る。それで良いのではないかなと思うんです。一つ何かがおこると、次にどんどん連鎖していく。そういうことで良いのではないのでしょうか。

**岡村** 転ばぬ先の杖ばかり考えていても何も始まらないことも多いですね。

**西木** そうです。アートデリバリープロジェクトでも、各県の推薦作家に声がけをしたりすることがなければ、県を越えて行ってみようとも思わないわけで、最初に何かを投げてみるということは大切だと思います。

**土谷** コンプライアンスに重点が置かれる時代だからこそ、アートで石を投げていくというのは良いですね。

**岡村** 私は青い空の利用者さんにネジ人間の達人が居るので一緒に来て、創作を通じて沢山交流をしてもらいたいですね。どんな波紋が広がるんだろう。想像するだけでワクワクします。

**西木** そうですね、教えるというよりも、制作を眺めていると自分もやりたくなるという空気感や感じるもの、そういうのがあるんですね。そこからの影響が必ずあるはずなんです。人や事への出会い方を大切にしていきたいですね。

**松岡** 前回のアートデリバリープロジェクトの企画では「出会い」を感じました。アートセンターでもいろいろな人来てもらってそこで生まれる相乗効果を形にしたいんです。展示だけでなく、ネジ人間やメタバースの時みたいなことをする中で交流が生まれる形が良いなと思っています。

**\*1「バスレルメタバースプロジェクト」**

みんなであそぼうの日は来場いただいた皆さんにメタバースをととても楽しんでもらった感触がありました。そもそも、コロナ禍で外出自粛ムードがまだ漂っていた令和4年度に計画したコンテンツで、その頃の出会えなさムードを逆にとり、テーマを設けてバーチャル空間内に展開してみました。ブルースカイ ZOOでは、単なる動物の立体作品の展示ではなく、作者が思うサイズや動き、鳴き声を再現してメタバース内に仮想的動物園を作りました。ブルースカイスタジアムでは、ネジ人間で製作された野球場を等身大に拡大して中に入れてみようと考えて実験的に制作しています。

メタバースというのは、リアル空間では情報の取捨選択が難しい人もいたり、対人関係に困難がある人もいたり、物理的に動けない人もいたり、そもそも人や社会に関心のない人もいたり、そういう人たちの一つの居場所としてデモンストレーションできるのでと考えてつくりました。(談：土谷)

**\*2「ネジ人間ワークショップ」**

バスレルとしても実はネジ人間を青い空(バスレルの母体であるNPO脳損傷友の会高知 青い空)以外ではじめてワークショップとして実施しました。感触としては、例えばレジンを使って立体造形をすることは比較的ハードルが高いかなあと考えていた部分もあったのですが、けっこうハマってくれている方も多くて、一番ハマってくれていた方は巨大な造形物まで制作していて、やってよかったなあと感じています。

ネジ人間に使っている素材は、青い空のB型支援で取り組んでいる廃品解体作業で出てきた副産物を分別したものが素材でして、絵の具や粘土といったいわゆる一般的な画材でなくて、利用者さんが日常業務や活動と地続きで造形遊びに取り組めるというのと考えて、日々、素材を分別して溜めています。(談：土谷)

## その他の取り組み

その他の取り組みとして、ブロック会議では、各県の支援センターの年度計画やその進捗状況の確認、必要性が高まっているテーマについての議論等を行いました。また、ブロック研修会では、支援センターのニーズを調査した上で、参加型評価・協働型評価をテーマとした研修を中心に実施しました。さらに、ふらっと flat では、毎回自由なテーマで支援センター 担当者や行政担当者との意見交換を行いました。

### ブロック会議

- ① 第1回ブロック会議(オンライン開催)  
日時：令和6年5月9日(木) 10:00～11:50  
参加者：支援センター12名 行政関係者3名
- ② 第2回ブロック会議(オンライン開催)  
日時：令和6年8月22日(木) 10:00～11:50  
参加者：支援センター9名 行政関係者4名
- ③ 第3回ブロック会議(香川・対面開催)  
日時：令和6年10月31日(木) 10:00～11:50  
参加者：支援センター6名 行政関係者4名
- ④ 第4回ブロック会議(オンライン開催)  
日時：令和6年2月25日(火) 10:00～11:50  
参加者：支援センター4名 行政関係者2名

### ふらっと flat

中国・四国エリアはブロック内の県が多く、各県へのアクセスにも時間がかかる。気軽にコミュニケーションを取るために、Zoomによるオンラインミーティングを開催しています。

- ① 第1回ふらっと flat  
令和6年4月24日(水) 10:00～12:00
- ② 第2回ふらっと flat  
令和6年6月4日(火) 10:00～12:00
- ③ 第3回ふらっと flat  
令和6年8月7日(水) 10:00～12:00
- ④ 第4回ふらっと flat  
令和6年11月13日(水) 10:00～12:00
- ⑤ 第5回ふらっと flat  
令和7年1月28日(火) 10:00～12:00

### ブロック研修会

- ① 第1回ブロック研修会(オンライン開催)  
日時：令和6年8月22日(木)  
テーマ：参加型評価/協働型評価の理解を深め実践してみよう  
講師：宮田智史(NPO法人ドネルモ)  
参加者：支援センター6名 行政関係者1名
- ② 第2回ブロック研修会(対面開催)  
日時：令和6年10月30日(木)  
テーマ：べちゃくちゃ鑑賞会  
講師：小笠原新也  
参加者：支援センター6名 行政関係者4名  
その他、一般参加多数
- ③ 第3回ブロック研修会(オンライン開催)  
日時：令和7年2月25日(火)  
テーマ：参加型評価/協働型評価を活用してみよう  
講師：宮田智史(NPO法人ドネルモ)  
参加者：支援センター4名 行政関係者2名



第2回ブロック研修会として開催したべちゃくちゃ鑑賞会での関係者集合写真

エピソード

## 出会いの場をつくるということ

岡村忠弘 バスレル センター長

一年前、映画「さよなら ほやマン」を観た。宮城県石巻の離島・多部島で暮らす漁師の兄弟、アキラとシゲル。震災で両親を失った彼らは、わずかな野菜とカップラーメンだけで生活していた。アキラは素潜り漁師として「ほや」を獲るが、借金に苦しみ、船を手放す危機に直面していた。そんなある日、東京から髪を青く染めた漫画家・美晴が突然現れ、「この家を売ってほしい」と現金を差し出す。驚くアキラだったが、美晴がシゲルの大好きな漫画の作者と知り、共同生活を受け入れることに。こうして、不器用な三人の奇妙な暮らしが始まり、それぞれの止まっていた時間が再び動き出していく(さよなら ほやマンパンフレット引用)。

映画を観て、アキラが美晴を拒絶する姿とシゲルが美晴を受け入れる場面に、自分の内面を重ねた。アキラが美晴を日常に受け入れるという変化を拒み、もがく様子が、まるで自分自身の気持ちを出しているようだった。人と関わることは素晴らしいと思う反面、「めんどくさい」と思うこともある。気づけば、私自身も新しい出会いや生活の変化に、億劫になっていた。子どもの頃の私は、人と関わることが好きだった。学校生活だけでは物足りず、少年野球への入部を親に懇願し、人と過ごす時間を増やしていった。しかし、大人になるにつれ、いつの間にかそのような行動は減少し、人と関わる時間も減っていった。友人も自分も家庭を持ち、時間が取れなくなった。仕事が優先となり、関係を築く余裕がなくなった。そうなった理由を考えるうちに、ふと思った。人と関わらなくなった原因を環境のせいにしてはいたが、本当にそうだろうか。環境が変わることで内面も変化し、人と関わるのが億劫に思えてしまっているのではないかと。自分自身の考え次第で、再び人とのつながりを持てるのではないかと。

今年度、バスレルで取り組んだアートデリバリープロジェクトを通じて、私はさまざまな出会いを体験した。障害のある作家さんたちが会場で出会い、交流を深める様子。会場の近所に住む方が会場設営の時から足を運んでくれ、企画終了後には手紙をくれたこと。障害者芸術文化支援普及事業に携わる行政の方々や情報を交換し合ったこと。こうした場面を通して、出会いを求めている人は自分自身を含め、たくさんいるのだということを確認した。障害者芸術文化活動普及支援事業の実施要綱には、「芸術文化活動(鑑賞・創造・発表等)に参加する機会の確保」と記載されている。中間支援の立場である当センターも、この要綱に基づき事業を遂行しなければならない。しかし、当事者が本当に望んでいるのは参加する機会に留まらず、人と人が「出会う」機会や「関わる」機会なのではないかと改めて感じた。アートデリバリープロジェクトを実施するまでは、当事者同士の出会いの場を設けることに意味があるのか、彼らはそれを本当に望んでいるのかと考え、自分の尺度で測り、やらない理由を模索していた。しかし、今回のプロジェクトを通して、その考えは変わった。

「さよなら ほやマン」を観たときに抱いた気づきが、このプロジェクトを通じて確信へと変わった。人とのつながりに対する欲求は、誰もが内面に持っているものではないか。そうであるならば、私たちが出会いの場をつくることにこそ中間支援の意味があるのだと思う。求めているかどうかは、場がなければ確かめようもない。大切なのは、その場をつくることである。場を設けることで、そこで何か生まれるかもしれない。人が出会い、互いに変化をもたらす場を提供し続けることこそ、中間支援の役割なのだと感じた。アートデリバリープロジェクトを通じて、場をつくることの重要性を再認識した今、これからも、人と人が出会い、新たな関係が生まれる場を提供し続けていきたい。

厚生労働省 令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業

中国・四国ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター

### 『中国・四国 Artbrut Support Center passerelle』

センター長：岡村忠弘

芸術文化活動支援コーディネーター(障害福祉)：平谷尚大

芸術文化活動支援コーディネーター(舞台、音楽)：北添紫光

芸術文化活動支援コーディネーター(美術)：土谷享

### 令和6年度事業報告書『Passerelle Report』

発行：中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

デザイン：一般社団法人パンタナル

イラスト(表紙、p.52)：徳弘希伊

協力：あいサポート・アートセンター、  
島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、  
愛媛県障がい者アートサポートセンター、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、  
岡山県子ども・福祉部障害福祉課、広島県アートサポートセンター、薫工ミュージアム分室、  
香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES

発行：2025年3月31日

NPO法人脳損傷友の会高知青い空／中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

住所：高知県高知市塩屋崎町2丁目12-42 2F

TEL：088-803-4100 FAX：088-803-4420

E-mail：passerelle@blue-sky-kochi.com

<https://asc-passerelle.com/>



